

「建築 100 人展 2015・10 周年記念大学展・美術館展」 開催

建築学生のための如学会「進路支援プログラム」
「進路ガイダンス・2015」 開催

「蘇える武蔵工業会館」

「東京都市大学フェア in 静岡」

海外報告

「スキルアップ講座」開催

都市大建築の将来像 - 3

「女流ファイル」 - part・13

卒業設計・卒業論文 / 蔵田賞・如学会賞

修士設計・修士論文



今年度は、如学会推薦による吉田勝氏（S43 卒）が校友会会長に就任し、如学会も校友会レベルでの活動と交流が広がった年でもありました。一方、校友会も学生支援事業の最重要課題として学生が就職・進学を OB、OG に相談できる場である「進路ガイダンス」を全学レベルで始動させる方向で、常任幹事で決議されました。「進路ガイダンス」は如学会としては既に 3 年実施し、今年で 4 回目となり、その経験を踏まえて如学会も全面的に協力していく方向です。

如学会における今年の主な実施予定行事は以下の通りになっております。如学会の皆様の積極的なご参加を歓迎いたします。

■「定期総会・講演会・懇親会」2016 年 6 月 4 日開催予定
今話題の東京オリンピック・パラリンピック施設に関する講演を東京副議長になられた川井しげお先生（本学土木卒）に、お願いしております。
■「函館・都市建築視察ツアー」2016 年 3 月 26 日ー 28 日（2 泊 3 日）開催 昨年の「金沢・建築都市視察ツアー」に続き、今年度は北海道新幹線開通初日に、如学会主催、校友会共催で「函館・都市建築視察ツアー」を実施予定です。
■「進路支援プログラム／進路ガイダンス」2016 年 11 月 23 日（水・祝）開催予定 それに先立ち 8 月末には「産学連携」をテーマとした「進路ガイダンス準備会」も開催予定です。
■「建築 100 人展 2016・大学展／巡回展」（大学展：2016 年 10 月 29 日ー 30 日、巡回展：未定）開催予定
今年度は、大学展（2015 年 10 月 31 日ー 11 月 1 日）を開催後、10 周年記念展として、「上野の森美術館」にて美術館展（2015 年 12 月 16 日ー 24 日）を開催しました。開催中には安達功五島育英会理事長ほか大学関係者の方々をはじめ、如学会、校友会、柏三水会の方々など多くの同窓生や一般の方々が鑑賞に訪れ、懇親を深めることができました。会場では「100 人展 10 周年記念誌」も販布されました。
■11 年目の「夏期特別講義」を 2016 年 8 月に開催予定。

山岡嘉彌

（S46 卒）

如学会会長

如学会の活動報告



本年も、建築学科の OB・OG15 名前後に「特別講師」を委嘱、1 コマ 90 分の授業を受け持ち、大学では学べない社会の実務を学生が学べる機会をつくります。
■「資格支援プログラム」（一級建築士、一般施工管理技士、宅地建物取引主任資格など）継続中
数々の資格取得を支援するための、卒業生による指導と、資格取得専門教育機関との授業料の減免措置を継続しております。
■「如学会 NEWS・2016 春号／2016 秋号」の発行
前号より校友会からの支援費支給の一部を活用し、カラーページを増ページすることができ、より読み易い誌面を構成することができるようになりました。
■「産学連携プログラム」
来年度から実施するために、事前の調査、検討を始めており、大学、学科教室と同窓生の所属する企業、官公庁との連携による新しい試みを徐々に進めて行く予定です。
■他に毎年恒例の OB・OG の設計による作品を見学する「作品見学会」、建設会社の技術研究所などの研究機関訪問の「技術研修会」などを実施していく予定です。

以上のような事業を推進するにあたり、是非皆様のご協力のお願いを申し上げます。
■正会員（会費を納められた方）の拡大にご協力下さい。
建築学科の学生は、大学を卒業した時点でいわば自動的に如学会会員となるわけですが、年会費を納めると「如学会 NEWS」、「如学会メールマガジン」などの情報が届き、様々な如学会（校友会も含む）関連事業に参加が可能となります。級友、先輩、後輩など、お知り合いの方々にも周知を促し、正会員としてより一層の飛躍のチャンスを生かしていただけることを願っております。
■常任理事、委員の募集
如学会は他学にも類をみない活発な活動を続けておりますが、より一層の発展のために、一緒に活動をしてくれる同志を募っております。より多くの仲間による叡知の結集がより良いアイデアを生み、活動が展開していきます。卒年、出身、分野、男女など一切の制限はありません。是非、ご一緒に活動しましょう。ご応募をお待ちしております。
今後とも如学会各位の益々のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。
ご連絡・問合せ先： jogakkai.info@gmail.com

■建築学科人事

濱本卓司先生は今年度（2016 年 3 月）で定年退職となります。1990 年に本学に着任され 26 年間ご指導頂きました。ご定年後も先生には名誉教授として建築学科教室にご助力頂きたいと思います。なお、濱本先生の後任人事につきましては公募を継続して行うこととなりました。

構造系では 2016 年 4 月より教育講師として山田俊一先生に着任して頂く予定です。山田先生は北海道大学のご出身で鹿島建設構造設計部、小堀研究室に所属されていました。よろしくお願いいたします。

准教授佐藤幸恵先生は 2016 年 4 月から 1 年間 University of California, Berkeley に留学されます。内容としては「超高強度コンクリートの水和反応過程に関する理論、およびモデル化、解析手法について学び、技術を習得するとともに、最新の材料分析技術の研修を行う。」とあり、成果をご期待ください。

■博士後期課程授業料減免制度スタート

平成 28 年度入試から「大学院修士課程、博士後期課程の社会人選抜入学者授業料減免」制度が始まります。この制度は大学院入学試験において「社会人選抜により修士課程・博士後期課程に入学した方」に対して、修士課程では授業料年額の 50％を減免、博士後期課程では 90％を減免するものです。特に博士後期

勝又英明

（S55 卒）

東京都市大学
建築学科主任教授

建築学科の近況



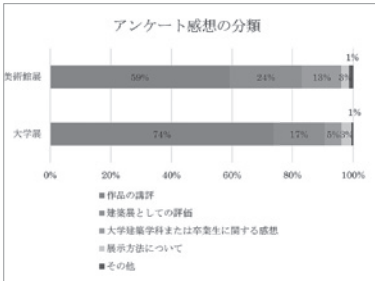
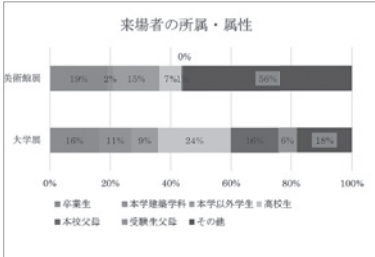
課程では年額 12 万円程度（月額 1 万円程度）で、在学が可能です。入学試験も「出願書類に関する審査および口述試験を含む面接審査を総合して選考」となっており、皆様には博士（工学）を目指して是非進学を検討して頂きたいと思います。詳しくは大学の Website をご覧ください。（平成 29 年度入試の案内をご覧ください。）

■BIM 教育のための戦略的施策

建築学科では BIM を建築教育に導入するための試行を行いました。昨年夏期には BIM の専門家による学生へのレクチャーということで、如学会寄付講座で村松弘治氏（S57 卒・安井建築事務所）、新居未陸氏（H12 卒・新居千秋都市建築設計）、五十嵐恵理子氏（H4 卒・大林組）にご講演頂きました。BIM ソフトを使用した設計教育の試行も昨年の 12 月から今年 2 月に行いました。使用した BIM ソフトは Revit と Archicad で、こちらのソフトも専門のインストラクターの方に来ていただき実習を行いました。受講者は希望者のみで学部 2 年生から修士 2 年生までで計 40 人ほどでした。受講した皆さんの感想としては、思ったよりも易しく（まだ 3D が簡単に立ち上げるというレベルですが）、今後の活用が期待できそうです。Archicad のレクチャーでは濱田祐也氏（H18 卒・日建設計）にご協力いただきました。

今後は今回の試行を受けて、BIM の建築教育への導入について方向性を探りたいと思います。
皆様のご協力をお願いいたします。

TOPICS



「建築 100 人展・美術館展」開催される

2015 年 12 月 16 日〔水〕ー 12 月 24 日〔木〕

上野の森美術館

「第 10 回建築 100 人展 2015」の大学展は学園祭の開催日である 10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）の 2 日間、世田谷キャンパス 4 号館・建築学科棟で開かれました。出展者 154 名、184 点の作品が建築学科棟を特徴づけているオープンな雰囲気をもままに、在校生の作品展示と一体となったレイアウトが印象的な展示となりました。今回の大学展では在校生による展示と 100 人展の展示の境界がなく、受付を共有するなど、建築学科在校生との接点が多くなりました。わずかなことではありましたが、同窓生による如学会が大学とのつながりを強めた感をもつことができました。大学展では、これから志望大学等、進路を定める高校生やご父兄が本年も多数ご来場いただきました。例年、卒業生の仕事の様子をみて、進路の方向性を考える一助としてお役にたっているようです。これだけでも 100 人展の存在は大きいと感じています。

さらに、今回は円熟した卒業生の作品とフレッシュな在校生の作品を一堂にみることができ、さらにその効果は大きく、また、いっそう楽しんでいただけたよ

うです。

10 周年を迎えた今回の「建築 100 人展・巡回展」は、上野の森美術館に併設されているギャラリーにて 12 月 16 日（水）から 24 日（木）にかけて開催され、約 1800 名にご覧いただきました。上野の森美術館は JR 上野駅に隣接する上野恩賜公園内にあり、利便性がよく、ユニークな企画展示に多くの来館者を集める美術館です。100 人展の開催期間中に開催されていた浮世絵展も盛況で、訪れた方々も多数 100 人展にご来場いただきました。浮世絵展を目的にこられた方々は、ついでに？お立ち寄りいただいたわけですが、アンケートに寄せられた感想を拝見しても、思わぬ収穫を得て、喜んでいただけた方も少なくないようです。ご自身のお住まいと比較してお友達との会話に花を咲かせている奥様方、施設を使う、運用する立場から公共建築物の作品をご覧になっている方、建築を美術品の鑑賞と同様に見て感想を話し合っていたご夫婦、青年委員会の活動である復興支援を紹介したパンフレットを興味深く見て持ち帰る人など、多様な姿に出会うことが

「10 周年記念展」成功裡に終了、その先の「建築 100 人展」へ

レポート ● 舟岡努（S52 卒）
舟岡技術士事務所



大学展



上野の森美術館展



「上野の森美術館」会場入口

できました。日常では建築を意識することはないのですが、ブラッと訪れた皆様にも「思わぬプレゼント」を差し上げることができたようです。上野公園というところは外国からの観光客や日本に滞在している外国籍の方も多く訪ねてきます。ひとつひとつのパネルを食い入るように見ている欧米人や中国からの他大学建築学科留学生など、国籍は様々でしたが、真剣なまなざしが印象的でした。東京都市大学という大学名に興味をもち、声をかけてこられる方もありました。年配の方は「旧武蔵工業大学」と説明させていただくと、急に記憶の糸がつながり合点がいくようで、経緯や場所、現状などを尋ねられ、大学の写真パネルやパンフレットを着に話に弾みがつきました。このように、大学を広く知っていただくことや、建築に関心を持っていただく場となっていたことが、美術館展での 100 人展の新たな特性でした。これは、今後の開催運営を考えるうえで、大きなヒントになると考えています。

記念誌の発刊、ギャラリートークの実施ともあわせて、例年にも増して、内外に大きなインパクトがあった 100 人展となりました。

大学展、美術館展をあわせて約 500 名にアンケートのご協力をいただいています。アンケートの集計結果の一部をご紹介します。（左上の図）
入場者の属性は大学展と美術館展とは異なることが判り、今後の会場選定の参考になります。
アンケートには多くの感想をお寄せいただしていま

す。大別すると 4 つに分けられます。最も多いのは、個々の作品への講評です。アンケートでは、建築作品や絵画への感銘が多く寄せられています。多岐の建築分野にわたる展示を評した感想も多く、特に美術館展では多く、来場者特性のひとつである建築関連ではない一般の方へのアピールの場となっていることがわかります。大学とその卒業生に関するものは、各作品から感じられる高いレベルを卒業生全体のものとしてたたえるもの、同窓の仕事ぶりに奮起する様子、これからの進路選定への決意などです。

100 人の様々な仕事の結実が一堂に会したこのイベントは、まだまだできることがあると感じられる 2015 年の建築 100 人展となりました。様々な出会いを生む建築 100 人展を 2015 年度も開催できた誇りを、出展者と運営にご尽力された皆様と分かち合いたいと思います。100 人展の本質は変わることはないと思います。様々な分野で建築と向き合い、奮闘してかたちとなる作品と、そこから何かを感じ取る来場者の関係がより多く、深くなるよう今回得ることができた「気づき」を今後に生かしましょう。如学会会員の皆様のみならずのご活躍に期待し、今後も発展的な開催が継続してゆくことを願います。
協賛企業、共催団体各位、美術館展の開催にご尽力、ご協力いただいた、台東区役所在職の同窓生、上野の森美術館の館員、及び関係者各位には、この場をお借りして、あらためて御礼を申し上げます。
（100 人展実行委員会委員長）

「進路ガイダンス 2015」開催

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会
共催：東京都市大学校友会

2015 年度
如学会

「進路支援プログラム」 OB・OG による進路ガイダンス

——— 実施報告 ———
第 1 部 業種別仕事紹介
第 2 部 企業別仕事紹介
第 3 部 懇親会

2015 年 11 月 25 日 [水]
13：00-19：00

「先輩に聞こう！ 先輩と語ろう！」

気軽に自分の進路を OB・OG と相談で
きる場を提供することができました。

大企業やアトリエ事務所、規模にかか
わらず建築界とその関係領域の幅広い
分野の先輩達が後輩のために集まりま
した。

この度「2015 年度如学会活動の主テーマ」
として以下のとおり 3 年目となる「進路
支援プログラム／OB・OG による進路ガ
イダンス」を実施致しました。この企画は
本学建築学科の卒業を控えた学生に対し、

- 「一人では不安な就職問題や
進学問題について大学・OB
・OG が親身になって相談に
乗ってくれる場の提供」
- 「OB・OG を通じて建築の実業
社会を知る絶好の機会」
- 「本音で語り合えるコミュニ
ケーションの場の提供」

を目指したものです。

如学会として当企画に込めました意義は、
「学生個々人と大学・OB・OG との繋がり
を大切にしてきた "本学の精神" を就職・
進学という大学生活～社会生活を横断的
につなぐテーマに生かし、具体的に表現
する場を提供する」ことにあります。

当企画は 3 部構成で実施致しました。
「第 1 部：業種別仕事紹介」では " 業種
別に一つの企業を選び、その企業の本校
OB・OG の方に各業種の概要をパワーポ
イントを用いて約 7 分でご紹介いただく
場 " とし、14 の業種別企業紹介を行って
頂きました。

「第 2 部：企業別仕事紹介」では " 建築
関連の幅広い業種 69 社の企業の方々 " に
参加いただきました。このコーナーは「本
校 OB・OG の方と学生とのコミュニケー
ション」を通じて「建築関連業界の生の
情報を伝える場として、学生の不安を少
しでも払拭する交流の場」創りを目指し
たものです。この企業別仕事紹介に期待
する役割とは「先輩に聞こう！先輩と語
ろう！」というサブタイトルにあります
ように、あくまでも学生の質問に答える
形で「就職・実社会での活動等に関する

企業とそこに於ける業務についてコミュ
ニケーションすること」にありました。
リクルート活動解禁直後の開催でしたが、
「リクルート活動」とは一線を画し、OB・
OG の方々にはあくまで個人として参加
頂きました。参加頂きました企業の OB・
OG の方々には学生たちの不安・関心・期
待等に熱心に応えて頂き、とても盛況な
場とすることができました。

「第 3 部：懇親会」では企業 OB・OG の方々
と学生とが、親しく歓談し、学生の関心・
疑問・不安等を直接先輩にぶつけること
ができ、学生にとって他に得がたい「交
流のチャンス」を創り出すことができました。

昨年に引き続き開催した今回の「進路支
援プログラム」を通じて多くの企業から
高い評価を頂き、今回未参加であった企
業の OB・OG の方々からも早速次回に向
けての参加のご要望の声が寄せられてお
ります。また学生の側からも、この「プ
ログラム」で得た情報・人脈を会社訪問
等に生かし、就活に取り組む良いきっか
けとなったとの高い評価を得ております。

今回も昨年の反省を生かして、多くの改
善・工夫をして開催致しましたが、参加
頂きました「企業 OB・OG」「学生」から
はいくつかの課題等も寄せられておりま
す。こうした課題・要望を次に生かし、
より充実した「進路ガイダンス」とすべ
く活動して行きたいと考えております。

今回の参加者総数：288 名
内訳は
・参加企業 69 社
（企業 OB・OG その他参加者 159 名）
・参加学生 111 名
・大学・如学会関係者 18 名

進路ガイダンス委員会委員長 斉藤 博



(5 号館 1 階・小講堂)

第 1 部「業種別仕事紹介」14 名の先輩講師による業種毎の活動紹介が行われました。

建築学生のための如学会「進路支援プログラム」への御参加ありがとうございました！

- 実施日時： 2015 年 11 月 25 日 [水] 13:00-19:00
- 場所： 東京都市大学世田谷キャンパス
- 開催の主旨：この企画は「就活を控えた学生と企業代表の OB・OG が本音で語り合うコミュニ
ケーションの場」「学生個々人と大学・OB・OG との繋がりを大切にしてきた本学
の精神の表現の場」を創り出すための試みとして昨年に引き続き開催したもので
あり、" 如学会の役割・存在 " を意義あるものとするためのチャレンジでもありま
した。

□実施プログラム

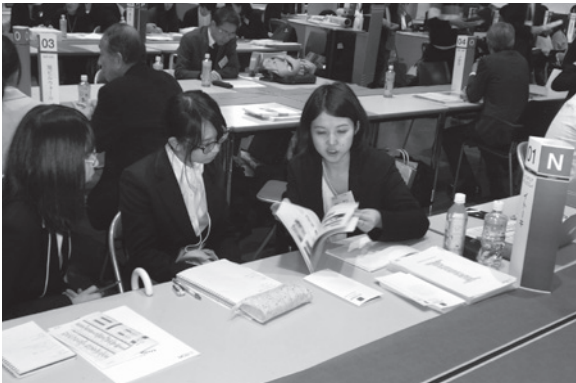
第 1 部			
業種別仕事紹介 13:00-15:45 (5 号館 1 階・小講堂) 建築関連業界を代表する 14 の企業の OB・OG の講師の方々から企業・活動の概略につきパワーポイントを用いてお話しいただきました。			
[業種名]		[企業名]	[担当者 (卒業年)]
1	アトリエ設計事務所	新居千秋都市建築設計	新居未陸 (H12)
2	構造設計&総合エンジニアリング	造研設計	三好敏晴 (H10)
3	組織設計事務所	安井建築設計事務所	村松弘治 (S57)
4	総合建設会社 (設計)	大成建設	鈴木裕美 (S56)
5	総合建設会社 (施工)	鉄建建設	北野一彦 (S54)
6	環境・設備関連	大気社	飯川公貴 (S60)
7	ハウスメーカー	大和ハウス工業	柳生直彦 (H04)
8	インテリア・ディスプレイ	三越伊勢丹プロパティデザイン	浜本浩蔵 (S57)
9	技術・材料関連	旭ビルウォール	倉斗道夫 (S42)
10	官公庁	台東区	伴宣久 (S56)
11	鉄道・不動産・ディベロッパー関連	森ビル	吉松晃士 (S59)
12	エネルギー・情報関連	東京電力	佐野仁美 (H06)
13	マスメディア	イトーキ	松島咲季子 (H21)
14	海外留学・海外就職	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	十河彰 (H16)

第 2 部	
企業別仕事紹介 16:00-17:30 (建築学科 1 階・グラントギャラリー) 参加企業別に 69 のテーブルを準備、関心のある企業の OB・OG の方々から直接生の情報を得られる貴重な場を提供することが出来ました。	
(五十音順)	
官公庁	荒川区、川崎市、京都府、台東区、横浜市、UR 都市機構
アトリエ設計事務所	ディー・サイン、長谷川順持建築デザインオフィス、三上建築事務所
構造設計事務所	造研設計、Arup
組織設計事務所	アルモ設計、石本建築事務所、NTT ファシリティーズ、観光企画設計社、久米設計、坂倉建築研究所、千代田テクノエース、東急設計コンサルタント、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、山下設計
総合建設会社	安藤ハザマ、大林組、大本組、鹿島建設、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、生和コーポレーション、銭高組、大成建設、大和小田急建設、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、戸田建設、飛鳥建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、藤木工務店、フジタ、三井住友建設、若築建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、大気社、高砂熱学工業、西原衛生工業所
ハウスメーカー	住友林業ホームテック、積水ハウス、大和ハウス工業、東急ホームズ、長谷川萬治商店
インテリア・ディスプレイ	イトーキ、イリア、丹青社、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭硝子、旭ビルウォール、ノザワ、LIXIL
不動産・ディベロッパー関連	鈴与三和建物、住友不動産、ナイス、三菱地所レジデンス、森ビル
情報関連	東京ガス、東京電力、トランスコスモス、NTT-DATA
マスメディア	総合資格
海外留学・海外就職	新居未陸、桑原茂、杉本拓海、十河彰

第 3 部
懇親会 17:30-19:00 (1 号館 4 階・ラウンジオーク)
立食形式の懇親会で、第 2 部で交流できなかった OB・OG とともに更なるフランクな
形で質疑応答・コミュニケーションの機会を創りだすことが出来ました。

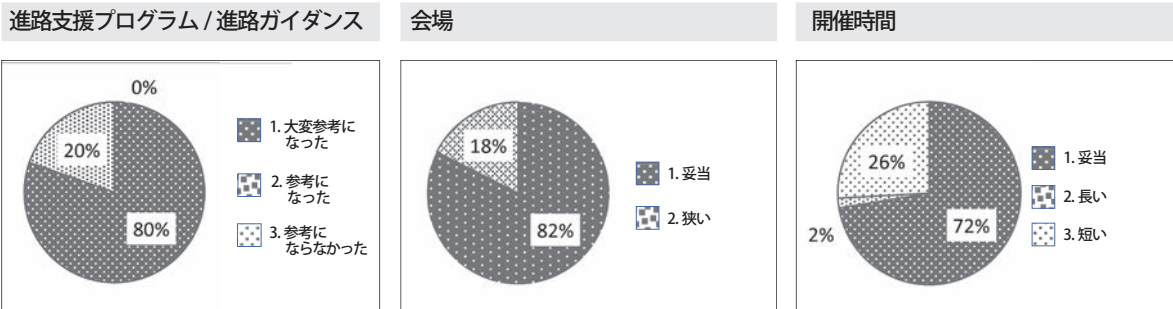


第2部：「企業別仕事紹介」熱気のあるコミュニケーションの場となりました。（建築学科棟1階・グランドギャラリー）



第3部：「懇親会」OB・OGと学生とが親しく交流し、情報を交換することができました。（1号館4階・ラウンジオーク）

■参加学生アンケート

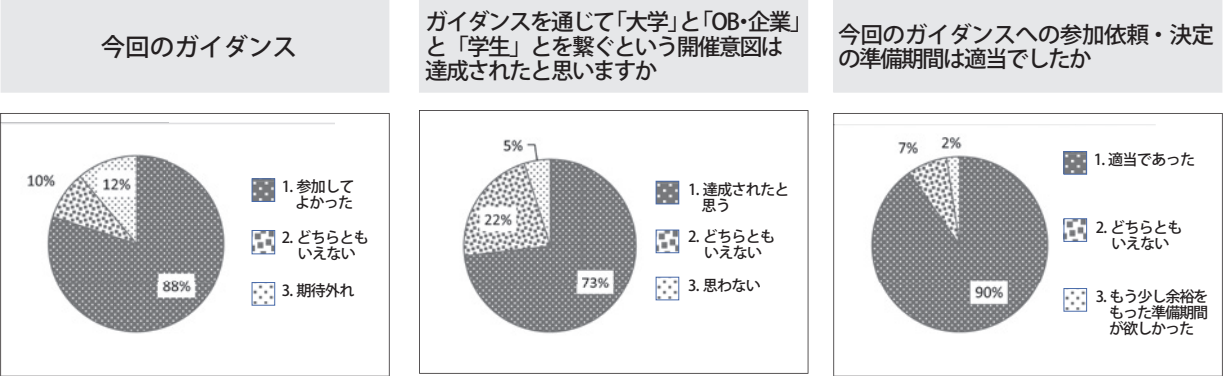


■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

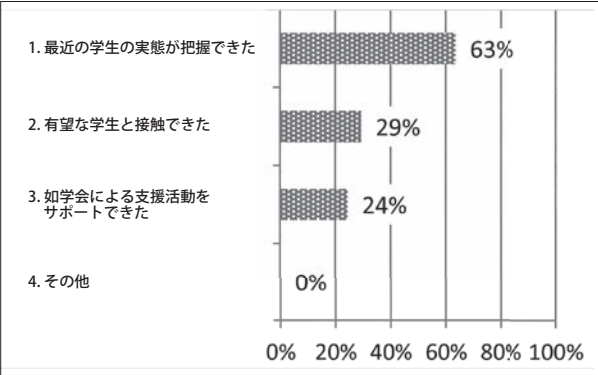
「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加学生の80%の方から大変参考になった・有意義であった」との回答が寄せられました。69社と昨年を上回る企業のOB・OGに参加頂き、こうした多方面で

OB・OGが活躍されていることを初めて知ったという学生も多く、この「ガイダンス」での出会いを「会社訪問」等今後積極的に活動する良いチャンス・契機となったとの報告も寄せられています。

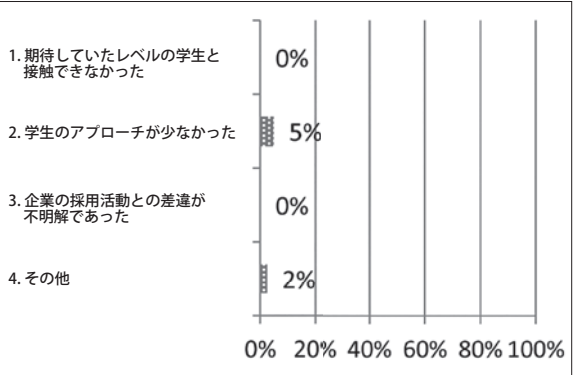
■参加企業アンケート



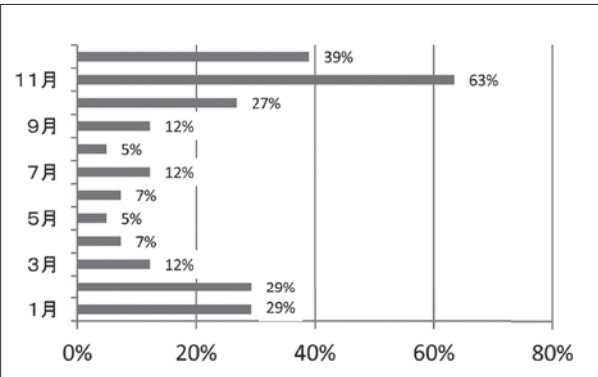
参加してよかった（複数回答）



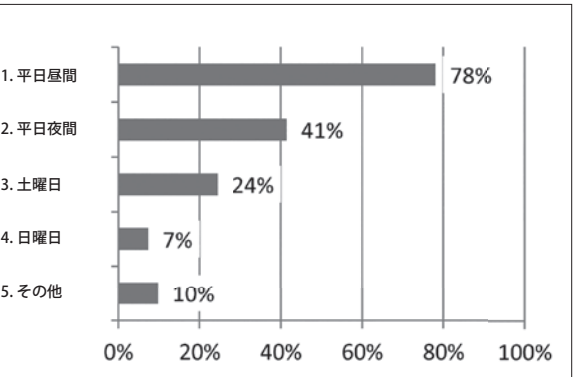
期待外れ



開催希望時期は（該当しない月は削除）



参加しやすい時間帯は（該当しない時間帯は削除）



■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加企業の88%の方から参加して良かった・有意義であった」とのご回答が寄せられました。また会場・進行・サイン誘導等についても貴重なご意見を頂きました。不慣れな

点も多々あり、特に会場については大学の他行事との関係で確保できた会場が狭く、参加企業の皆様にはご不快・ご不便をお掛けしましたことを深く反省し、次回に向けて「改善・工夫」を図って行きたいと考えております。

「進路ガイダンス」に関するお問い合わせは、当企画担当の「会員委員会委員長 齊藤博（S44卒）
toshibunka@t-lx.co.jp
03-5411-3448」宛
お願い申し上げます。

今後の日本における都市景観から 建築教育までにわたる建築分野全般の国際化へ

文 ● 副島 健介 (H14 / 副島健介都市建築設計)

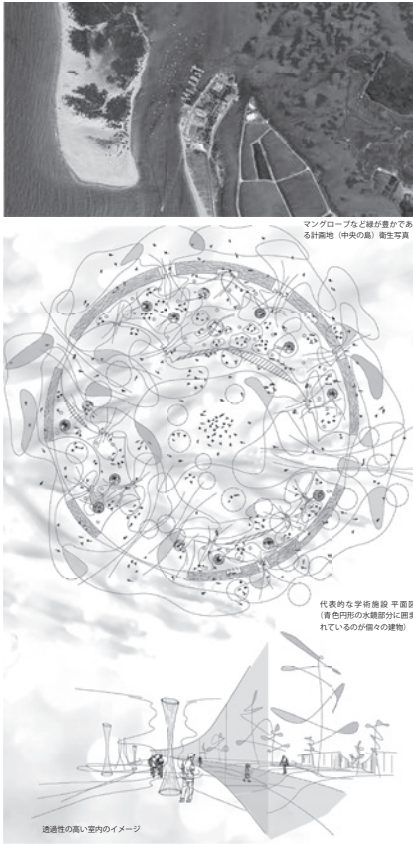
横総合計画事務所にて在籍時、海外都市ホテルや大学アートセンター設計など、海外アーバンデザイン・プロジェクトに携わる事で更なる経験を積みました。特に、シンガポール・オーチャード地区のグランド・デザインでは、槇文彦氏とマン・ツー・マンで設計を進める中で槇氏のデザインに取り組む姿勢を身近に学ぶ機会を得た事は、私のその後の仕事への姿勢を決定付けました。独立後は、海外プロジェクトに加え、医院設計、都内大学キャンパス監修提案、都内駅前再開発プロジェクト、住宅デザイン・コンサルティングなど多様な仕事に携わっています。これまで研究テーマとして、「世界の都市再生におけるアーバンデザイン手法の応用」に取り組んで参りました。創造することを押し進めるだけでなく、世界中の歴史的建造物や文化遺産の保存に取り組む米国ワールドモニュメント財団にサポートメンバーとして携わることで、既存学問体系にはない都市コンテクスト解釈の実践的な手法を検証しています。今後は、世界の各都市、特に東京がその魅力を維持するための都市構想に必要なアーバンデザインの理論を社会に反映できるよう、学術的概念と実務現場の架け橋の役割を担う仕事に更に取り組んで参る所存です。

また、都市・建築において多様なニーズに対する発展的な提案は不可欠であるものの、それに加えて災害時などにも柔軟に対応できる社会基盤の構築も必要となると考えます。そのためにも、私自身が創立メンバーの一人でもある、「災害時建築家組織VAN」を通した、大学や組織を超えたネットワークの構築によって建築分野全体としての多大な社会貢献が可能と考えます。引き続き、学生時代からの恩師である坂茂氏と共に、このような万が一への備えに繋がる活動を続けて参りたいと考え、また、もし可能でしたら、この活動を東京都市大学の学生や諸先生方と共有させて頂き、ご指導やご助力を賜りながら、さらに発展させることが出来

ましたら幸いと存じます。

さらに、現在私は日本国内において建築教育の国際化を推進する複数の大学や教育機関の実行委員として活動しています。現在講師として携わっている明治大学大学院 建築・都市デザイン 国際プロフェッショナルコース（日本初の実英語によるカリキュラム構成コース）に止まらず、この国際化実行委員の活動を通して日本のアビアランスを海外に発信することが重要であると考えております。国際化が更に急速に進んでいる現代社会において、世界を見渡した時に、都市・建築などの日本のデザイン文化水準は、和食文化や、漫画やアニメーション、歌舞伎や大相撲などの伝統芸能娯楽文化等と並び、日本が文化的に成熟した国と評価される時に欠かすことのできない指標の一つです。ここ数年間、私は米国ハーバード大学デザイン大学院のモーセン・モスタファヴィ学部長と協力して、今後の日本における都市景観から建築教育までにわたる建築分野全般について、これまでの検証及び今後のビジョン策定を進めています。その中で、実務時代からの恩師でもある槇文彦氏ともその内容を共有し、槇氏からの長期的かつ実践的なフィードバックを得て効果的な検証及びビジョン策定に活かしている最中です。

日本のデザイン文化水準が日本文化の成熟を示す指標であり続けるという使命を全うするためにも、共に立ち向かい、個々に力を発揮するデザインの専門家が多く必要とされています。私がこれまで培った日本国内や海外大学院・専門家とのネットワークを活かし、私自身さらに研鑽を積みつつ、機会がありましたら東京都市大学の学生に実践的な経験の場や、潜在的な問題を能動的に捉え、考え、解決策を探るという問題意識を持つための多角的な視点を提供し、力を合わせることでできる国際的視野に立った人材育成の一助になればと存じます。



スペイン・カディス地区海洋大学キャンパス
(デザイン監修、ハーバード大学大学院 在籍時
2006年ー現在、スペイン政府管理)

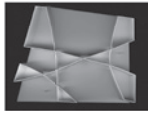


計画地：ランドスケープが整備された現在の
ブルックリン橋のたもとの様子



ブルックリン橋に隣接して静かに美術館が建つる模型イメージ

アメリカニューヨーク・ブルックリン美術館
(デザイン監修、ハーバード大学大学院 在籍時
2005年ー現在、ニューヨーク市 管理)



展示空間の一部：小笠原を都市軸により形成

副島健介・略歴
武蔵工業大学建築学科卒業（岩崎堅一研究室）、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科環境デザイン専攻修了（坂茂研究室）、ハーバード大学デザイン大学院建築・アーバンデザイン専攻修了、横総合計画事務所 勤務後、副島健介都市建築設計 代表取締役（2010-現在）、明治大学大学院理工学研究科 建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース 兼任講師、ハーバード大学デザイン大学院日本デザインワークショップ 実行委員・講師、南カルフォルニア大学建築学科 国際スタジオ講師 兼 プログラムコンサルタント、東京都中野区駅前再開発事業アーバンデザインコンサルタント実行委員

REPORT



ホテルアソシア静岡



原口兼正氏



講演会会場



校友会静岡支部の総会・懇親会



大学と保護者との連絡会

「東京都市大学フェア in 静岡」

2015.09.05

露木 博視

(S55 卒／オフィス露木)

■東京都市大学フェア in 静岡

主催：東京都市大学

協力：静岡新聞社・静岡放送

後援：東京都市大学校友会

東京都市大学後援会

日時：2015年9月5日（土）

会場：ホテルアソシア静岡

写真：TCU QUARTERLY No.197 (2015・OCT)

■フェア当日は、朝から快晴で、私たち東京からの参加組（吉田校友会会長、校友会理事の方々、校友会事務局、如学会メンバー）は、9時に二子玉川駅に集合し、貸切大型観光バスで一路静岡に向かった。12時前にホテル会場に着き昼食（お弁当）、その後は各自自由行動でのフェア参加となった。

■スケジュール

13時～14時30分

講演会：三木千壽学長

原口兼正氏

15時30分～

校友会静岡支部総会・懇親会

■フェア会場では、主となる「講演会」の他に「進学相談会など各種相談会」、「大学と保護者との連絡会」、「校友会静岡支部の総会・懇親会」が同時開催された。来場者は、一般の方、受験生（高校生）、在学生、保護者、卒業生、教職員と多彩で、会場内では都市大オリジナルグッズの販売、大学活動内容の展示パネルなども設置され、活気のあるお祭りのような雰囲気となっていた。

■講演会では、まず三木千壽学長が挨拶され、「静岡は東京に近く、新幹線を利用すれば通学圏内であり、志願者が多い」ことを強調されていた。続けて、「東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）」について画像（パワーポイント）を用いて説明された。10分の休憩の後、原口兼正氏の講演が始まった。題は、『二度の大災害の経験を通したBCPとセキュリティ』で、阪神淡路大震災と東日本大震災での実体験をもとに企業や個人がいかに対応すべきか、「会社の生命財産を守るためには、まずは社員を守ることが重要である」と述べられ、通信が途絶えても自動安否確認が可能なシステムを構築されたことなど

を話された。

（原口兼正氏：セコム株式会社元代表取締役社長、校友会副会長）

■講演会から懇親会までの間、少し時間があつたので、駅前近くの料亭「浮月楼」まで散歩してみた。築山・流水・庭池・浮殿からなる素晴らしい日本庭園だ。

■校友会静岡支部の総会・懇親会には、三木学長も出席され、支部会員（35名）に加え歴代の理事長、松下前会長、東海支部会員、東京からの出席者と総勢約70名の盛大な会となった。

後に聞いた話では、懇親会には保護者、受験生も参加されていたそうだ。

懇親会では、如学会参加者も静岡支部の方々と交流を深めた。静岡は、意外にも機械メーカーが多く、したがって支部会員も機械工学科出身が多いそう。当日も出席者の1/3以上を機械工学科卒の方が占め、反面、建築学科出身者は4名と少し寂しい気がした。

最後に、定例の武蔵工大、東横短大、東京都市大学の校歌の合唱でお開きとなった。

■帰路は朝と同じバスに乗り、車中は懇親会のお酒も手伝ってよく眠り、気が付いたら二子玉川駅だった。長いようで短く、充実した一日だった。

■フェアに参加して

朝は、フェアの目的も分からずバスに乗り、会場に着いたが、その規模と参加者の多さには驚かされた。「静岡は、通学圏である」と言われた学長の言葉通り、女子ならば家賃等を考えれば新幹線通学も有りで、親としては安心だ。また、懇親会では、昨年春に金沢支部の方々とお会いした時と同様に、静岡支部の方々の話の中にも地元への強い愛着心を感じた。田舎がない私には羨ましい限りである。

如学会参会者

大森康幹 (S33)、* 千野慎一郎 (S41)、* 袴田昌男 (S41)、吉田勝 (S43)、斉藤公彦 (S44)、山岡嘉彌 (S46)、露木博視 (S55)、小笠原良二 (S56)、藤井研一 (S57)、* 辻村久人 (H05)、* 大石直紀 (H17) (*：校友会静岡支部、敬称略)

理工学部は5／6年制にすべき

理工学部の学部教育の変革



組織幹部の文系的片寄り

現代日本にも色々な行き詰まり現象が散見される。中でも大きなのは殆ど日本全体の色々な組織で起きている幹部人材の文系的片寄りである。その為に伏流水の流れの上に原子力発電所が作られたような初歩的な過ちも生まれてきたし、更にその原発が使われているような、物質文明が発展して来て、色々な組織内の決断が先端的な理工系の問題を扱わなければならないのに、その重要な決定に参画するのは相変わらず文系幹部が多いことが続いている。今迄は大所高所から総括的判断を下せると思い込まれている文系出の幹部達である。津波に直面した福島原発における原子力に対する彼等の判断の失敗は典型的な例であったと言える。

明治維新の開国が文明の進んだ西洋諸国による外圧の強制によって引き起こされた為の影響は大きいのだが、日本文化の特色を端的に言えば、先進の欧米に比べて本当は文明が

遅れているのだから、文明に力を入れて勉強しなければならなかったにも拘わらず、ナショナリズムのせいもあり、片意地張って、文化に力を入れた教育が為されてきたのが現代にまで尾を引いているのである。明治初期に官主導で出来た官立大学の場合は江戸時代から続いている漢字文化主導でこれに当てはまらないが、小生の戦前の旧制中学における最重要科目は文系偏重の英数国漢であった。国立大学より少し後の時期に作られた有名私立大学の校歌の歌詞にもこの文系尊重がよく出ている。

先ず、慶応、1、見よ風に鳴るわが旗を、新潮寄するあかつきの、嵐の中にはためきて、文化の譲りたからかに、貫き樹てし誇りあり、樹てんかなこの旗を、強く雄々しく樹てんかな、ああわが義塾 …。次に明治、1、白雲靡く駿河台、眉秀でたる若人が、撞くや時代の暁の鐘、文化の潮導きて、遂げし維新の栄え担う明治…。最後に早稲田、2、東西古今の文化の潮、一つに渦巻く大島国の、大なる使命を担いて立てる、われらが行く手は窮まり知らず…。

文化偏重・文明軽視の傾向

このような、本当に西欧に後れをとっているのは「文明」なのであるから、教育上の努力目標の第一は「更に高度の文明」であるにも拘らず、後発国のコンプレックスも加わって、次第に文明・文化に関する概念の謳い文句は「文明は文化に含まれる」意味の使い方が強くなってきたのである。これは、物質では後れをとっているが精神ではこっちの方が上なんだぞと云う西欧に対する負け惜しみかも知れない。更にこの傾向は元々日本社会が

物質文明より精神文化を重んじ、民主社会よりも日本国体を重んずる風潮と無関係ではなかったともいえるかも知れない。更に、敢えて付け加えたいのだが拙論は、文化も重要でそれを文明の下位に起きたいと言うことでもないことをお断りしておきたい。只、「文明」を軽く見てはいけないということである。

このような文化偏重・文明軽視の傾向は日本の大学の技術教育ならびに卒業後の職場における人物の扱い方を歪めていったのである。大学の工学部を出た私の仲は、「文系の学生は暇だらけで、「大学へ遊びに来た」と言って良いくらいなのに、理系の学生は頭は悪くないのに勉強が忙しくアルバイトするひまもない。それでいて、就職したら文系出身の方が昇給も出世も早くするんだからいいやになっちゃうね。」とぼやいていた。

法律は未来を見通すことは出来ない

急速に発展する文明主導の日本社会の現実の中で、更に今、この文系先導風潮の中で、結構危険な人事に関する情性現象が慣習化されている。それは「法学部何年卒」が幅をきかせている幹部組織入り序列である。日本は公正な法治国家だからそれは当然だ、と考える方が多いであろう。これは法治国家の近代性への信頼にから来ているので一見無理もない。ところが法律は過去と現在のことしか規定できず、そこから未来を見通すことは出来ない限界があるので、日本の政治や企業行動の決定に、物事の決定が先へ進まない「先送り現象」が多いことの原因となっていることに気がつかねばならない。日本も文明の進歩変化が激しい国なのに、会社などの色々な組織体の幹部組織の中に理工系出身者が少ない

ことは直ちにその組織体の新しいことの先送りが多いという企画力の弱さとなっているのである。

それならなば理工系出身者を幹部組織の中に沢山入れば済むことではないか、となるのであるが、実はそう簡単にはいかないのである。日本の大学は理工系と人文系が「同年限・同単位」にされたために（あるいは他の先進諸国もそうだったかも知れない）、従来の理工系の卒業生は理工系の基礎科目だけを詰め込まれたいわば理工系技術の職人としても称するのが適した、経営者としては不適格な視野の狭い卒業生ばかりだからである。

学部6年制と大学院は違う

これらの点を色々考え合わせると、今の学制の大きな失敗は大学の学部期間を文・理共に3年（旧制）ないし4年（新制）と、卒業に必要な単位数を同じにしたことであった。この学部制は暇なので卒業単位は容易に満たしたけれど、将来体力勝負の営業にしか使えない文系学生と、忙し過ぎる上に視野が狭くて会社の将来ヴィジョンなど到底画けない理系学生を吐き出したに過ぎなかったからである。それなら理工系卒が大学院まで行けば、となると問題点が又違う、理工系大学院はその学部よりも更に先端の技術や高度の物質文明を扱わなければならないから必要なので、大学院は視野を広げることと無関係だからである。そこで、「大学の理工学部卒の視野を広げるために、5～6年制に变革する提案をしたらどうだろう」ということになるのである。大学院の改革はこれとは別に考えるべきである。

前述の仲の「ぼやき」に出てくる欠陥の原因は、今の日本産業界の、何々大学から何人とか、何々学科から何%という企業の新入社員採用枠条件の情性的継続制だとみると当たっているだろうし、これからも日本が「技術立国」を更に伸ばしてゆかなければならないとするならば、これから技術文明はますます急速に発展且つ複雑化するので、これを統御・活用出来る人材を産業界のリーダーとして至急大量に育成しなければならないことが解るであろう。福島原発のメルトダウン隠しだって本当のところは多くの文系出の東電の役員達が原子力などの文明の先端技術に無知であったことが原因であったためである。

学部5~6年制への変革提案

遊んでばかりいても卒業できた今までの文系学部の教育からは口八丁手八丁の営業部員は出てようが、新しい高度の技術文明の正しい芽を感覚的にもせよ見抜けるリーダーは生まれてこないだろうし、今までの理系のカリキュラムでは、忙しすぎて、間違いなく欧米人の築いた自然科学の大系を墨守するだけで、既存の製品の部分的改良しか出来ない職人的に名人芸的技術者しか生み出せなかったことを知るべきである。優秀だ！優秀だ！と云われながらも日本の技術は改良を主とするこのレベルのものが多かったことを銘記せねばならない。

結論として、「大々的且つ急速に発展する文明社会をリードすべき企業のリーダーを育成すべく、日本の大学はそのカリキュラムに人文社会系の科目も加えた5～6年制の理工系の学部を作らねばならない」と云うことが現代の理工学部の課題である。

文明文化研究所
元・武蔵工業大学教授

鈴木 一 氏

SUZUKI Hajime

昭和4年生まれ。1年間の中支武漢在以外は下町に住み、東京大空襲に遭うが生き延びる。
昭和27年 武蔵工業大学卒業後、東京大学大学院修士課程修了。工学博士。一級建築士。建築設計事務所、建設会社、武蔵工業大学教授を経て、現在、文明文化研究所長。建築の文明文化の変化による生活並びに都市・建築の研究を延長して、政治・社会問題の著作に専念中。

女流ファイル-Part13

社会の多方面で活躍する女性卒業生を
順次ご紹介しています。

中田理恵

(H17 卒)

●file-68 現場をひらく



NAKADA Rie (旧姓 足立)
2006 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (手塚研究室)、
2008 年 首都大学東京 大学院建築学専攻卒業、
2008 年 -13 年 日建設計、2013 年 - 中田製作所共
同主宰、2013 年 SD レビュー入選



店舗の施工ワークショップ風景

私は、ちょうど 10 年前に手塚研究室を卒業。卒業後、首都大学東京の大学院に進学。その後、日建設計に入社し、意匠設計者として研修施設、オフィスビル、空港施設等の設計に携わった。プロジェクトを進める上で、一番大切なのは、想いを共有することだと思う。何万㎡の建物で企画～竣工まで十数年かかる時でも、1㎡の小さなプロジェクトでも。想いの熱量が大きいと、プロジェクトに関わる人だけでなく、周辺の人たちをも巻き込んでいける。現在、主人（学部同期）や仲間たちと共に企画～設計～施工～運営まで行えるチームで活動をしている。プロジェクトに、より大きな想いの熱量を加えるために様々な試みをしてきた。その一つが『現場をひらく』ということ。現状の工事現場は、施主にとって近づくにくい場所になっている。施主は誰が自分の建物をつくっているか、わからない。そこで施主に工事へ参加してもらうことで、どのように建物が出来るのか、どのような人がつくっているのかを知ってもらうようにしている。一緒に解体して、壁や床下地をつくり、フローリングをはり、壁に



完成写真

塗装をする。自分達の手がはいることで、より愛着がわく。何に対して、お金を払っているか理解できる。棚をつけるなどのちょっとした工事ならば、自力でできるようになる。要望を伝えた後は、任せきりだった建物づくりに施主がどんどん主体性を取り戻して、関わっていけるようになる。住宅だけでなく、店舗やオフィスでも実践してきた。『現場をひらく』方法は他にもある。SNS を用いて、工事風景の写真をアップすることやネット上で 24 時間ライブ配信をし、クラウドファンディングで工事費を集める試みもした。また、施工ワークショップを開催し、施主だけでなく、より多くの人達に建物ができる過程を体験してもらっている。特に新規立ち上げの店舗では、建物の工事中からつくり手や施主の顔がみえることで、店のファンを増やすことにつながっている。今後は少しずつ、仲間を増やし、自分達のような小さなチームが全国各地で活動していくことで、愛着の持てる建物のつくり方を続けていければと思う。(中田製作所)

●file-69 入社してからを振り返り、今思うこと

二口明日香

(H15 卒)

FUTAKUCHI Asuka
2003 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (天野研究室)、2005 年 武蔵工業大学大学院修了 (天野研究室)、2005 年 トランスコスモス(株) 入社 ビジネスプロセスアウトソーシングサービス統括 ビルディングインフラサービス統括部所属



私は、新卒採用でトランスコスモス(株)に入社し、今年で 11 年目になります。建築に直接関与している会社ではないため、建築業界ではあまり耳慣れない会社ですが、実は、多くの建築・建設関係の企業の中でお仕事をさせていただいています。一言で言い表すのが難しいのですが、簡単に言えば、お客様企業の社員様が、コア業務に専念できるようにサポートすることが私の仕事です。裏方のような仕事をしているため、直接お仕事を一緒にさせていただいた方以外には、残念ながら会社の認知度が低いようです。業務内容は、配属先によって全く異なります。同じ建築業界といえども、所変われば仕事のやり方も求められることも異なります。その為、異動のたびに 0 からのスタートで、お客様

企業のこと、新しい業務のことを学ばなければなりません。私も、入社してから今までに数社で業務を経験してきました。異動のたびに新しいことを覚えたり、新たな環境に慣れることは労力のいることですし、これまでのスキルを生かせない寂しさがあります。しかし、新しいことに挑戦する面白さと、新たな環境への期待や新鮮な気持ちを何度も経験してきました。いわば、新入社員を何度も味わっているようなものでしょうか。また、1 社に留まらずいくつもの会社の中で働けることは、様々な考えや知識にふれることができ、多くの方との出会える楽しさがありますし、少なからず自分の成長の糧になっていると感じています。私の仕事は、「建物を設計する」、「空間をデザ

インする」というような前線で活躍できる仕事ではありません。しかし、前線の活躍には欠かせない一部を担っており、その中では、ちょっとした気付きや心配りなどの細やかな配慮が求められているように感じます。また、アウェイな環境であっても、その中にとけこめる柔軟な考えと姿勢が求められます。もちろん、建築知識は必要不可欠です。表舞台には立てなくても、様々な知識（考え）と人に出会うことができ、また、人としての柔らかさと視野の広さを磨くことのできる、今の仕事の面白さに気づき始めた 11 年目です。

(トランスコスモス)

酒井友紀恵

(H22 卒)

●file-70 私のやりがい



SAKAI Yukie
2010 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (住吉研究室) 2010 年 4 月～8 月 設備設計会社勤務、2010 年 10 月～2012 年 3 月 東急不動産短期雇用
2013 年 4 月～現在 台東区 都市づくり部 建築課建築・構造担当 (建築指導)

卒業後、設備設計事務所を経て、現在は台東区の建築課で確認申請、検査、許可、認定等の建築指導をしています。区役所の建築職の仕事は大きく分けてまちづくり、公共施設の建築、建築指導、区の条例指導等があり、基本的には 3 年で別の係に異動します。様々な仕事を経験し、異動してまた一から勉強という大変さがありますが、色々な面から建築に携わってこそ自分の仕事为抓手、本当のプロになることができると思います。また、係が異なると仕事内容が大きく変わるので、長く仕事を続ける上で、常に新しい経験ができることも魅力です。入区して 3 年目になりますが、建築基準法は奥が深く、日々勉強の毎日です。初めは大学の授業で建築基準法を少し学んだことがある程度で法律の知識は全くありませんでした。そんな中、長年建築設計をしてきた設計者の方に建築指導をすることはかなりのプレッシャーでした。まずは知識をとにかくつけること。そしてそれを伝える会話力、効率よく仕事を行うことを意識することにより、同じ舞台で話ができるようになったと最近は思います。私はこれまで個人住宅やホテル、商業施設等様々な確認申請の審査をしてきました。台東区は上野、浅草、谷中等区としては小さいながらも様々な特色のあるまちです。特に上野

動物園の園内建物や、お寺、駅の審査に係ることができるとは台東区で審査をする魅力だと思います。確認申請、中間検査、完了検査と図面の段階から完成するまでの工程に携わることができ、図面通り法律に合った形で建物が完成した時は達成感と喜びを感じることができます。しかし大変なことも多いです。法律に明確に記載されていないことや、新しい技術、用途に対してどのように考えて指導していくか。役所に来る設計者はわからないことを問い合わせに来るので、区としてなかなか決定できない事項が多いです。日々勉強し情報収集を行い、悩みが絶えないです。もともと私は建築やまちづくりに興味があり公務員を志望しました。そんな中最初に配属されたのが建築指導係で良かったと今は思います。施設の設計や、まちづくりに区として関わる際に、建築基準法を知っていることは大きな強みです。3 年目の私は異動の経験をしたことがありません。最終的にまちづくりに携わる課に配属されたいという思いもありますが、どの仕事も責任のある仕事です。辛くても苦しくても今は全てが経験だと思い、与えられた仕事に前向きに取り組んでいきたいと思っています。全てが台東区のまちをよくするための仕事です。私はこの仕事に誇りを持っています。

(台東区)

●file-71 卒業して 20 年、自分に「できること」がやっとわかってきました

小田桐直子

(H08 卒)



ODAGIRI Naoko (旧姓 細谷)
1996 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (宿谷研究室)
1996 年～2003 年 システック環境研究所
2005 年～2010 年 オーガニックテーブル
2010 年～ 佐藤エネルギーリサーチ 研究員



学校を適切に運用するためのマニュアル

先日、知人との雑談で「どうして建築を選んだのか」という話になりました。その時、推薦入試の面接の質問に対して「学校をつくりたい」と答えたところ、面接を担当された某教授に「夢が小さい、そんなのでは駄目だ、云々・・・」と嫌味を言われてしまった嫌な記憶がよみがえりました。今思えば、高校生の自分に想像できる建築といえば、住宅と学校くらいで、稚拙な返答だったのでしょう。大学を卒業し、環境コンサルティング会社、工務店、設計事務所（コンサルティング業務）を経て、現在は振り出しに戻り環境コンサルティング会社で働いています。環境コンサルティングは、『省エネルギー』や『温熱環境などの快適性』などについて実測やシミュレーションなどを行い、調査報告書をまとめる業務です。卒業直後に努めた環境コンサルティング会社では、数字に追われて苦しい日々でした。当時は『省エネ』は大事だ

けど、つまらないもの」と思っていました。今は、『『省エネ』は後からついてくるもので、断熱や日射遮蔽をちゃんと設けると快適で豊かな空間ができ、太陽や雨、風などの自然を利用しながら生活すると楽しい」という当たり前のことをちゃんと伝えたいと思うようになりました。不思議なことに、ここ 10 年くらいは、面接で口にした「学校」に携わる仕事、いわゆる『エコスクール』に関わっています。面接時にイメージした関わり方とは大きく異なるのですが、環境面において「快適で省エネルギーに」と考えて設計された校舎をちゃんと使いこなしてもらえるように、教育委員会や教職員に説明したり、その効果を数値で示したりしています。教職員や児童・生徒に「ライトシェルフが設置され、日中は明るいので、電灯照明は点灯しなくても大丈夫」と伝えても行動には移してもらえません。無理矢理省エネ行

動を促すのではなく、照度計で明るさを計ったり、時には実験的に電灯照明を消して生活してもらったりして、体感してもらい、その後、明るいのか、暗いのか、どう感じたかを意見交換し、どのくらい省エネになったか（無駄がこんなにあったか）を伝え、納得してもらうことに重きを置いています。コンサルティング業務は、建物という箱だけを見て数値を追いかけるのではなく、住まい手の行動をちゃんと見て、想像して、提案・行動することが大事。数値は裏付けデータであり、コミュニケーションツールである、ということがやっとわかってきました。このような業務は、大学時代にお世話になった宿谷先生や宿谷研究室の先輩・後輩と一緒に行うこともあり、たくさんのヒントをいただいています。今でも「思考停止になったらダメだよ」と励ましていただき、うれしく思います。(佐藤エネルギーリサーチ)



東京都市大学「建築 100 人展／大学展＋美術館展」出展者

主催：東京都市大学建築学科同窓会「如学会」
共催：東京都市大学建築学科、東京都市大学同窓会「校友会」

ご多忙中にもかかわらず、精力的にパネル、模型を作成され、ご出展いただきました各位に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

特別出展

(敬称略)

岡山理香 東京都市大学准教授

出展

(卒年順・敬称略)

鈴木一 (S27 卒)	元・武蔵工業大学教授
猪股昭久 (S32 卒)	元・コブラン設計事務所
笠幸公 (S32 卒)	元・防衛庁
木幡裕充 (S32 卒)	元・日鐵カーテンウォール、昭和鋼機
八塩久夫 (S32 卒)	元・安藤建設、大亜建設、新和建設
大森康幹 (S33 卒)	大森建築設計事務所
宮本博司 (S33 卒)	宮本設計
岩崎堅一 (S37 卒)	岩崎建築研究室／東京都市大学名誉教
阿部肇 (S38 卒)	NPO 法人 建築・街づくり支援センター
中園正樹 (S39 卒)	松田平田設計
相原俊弘 (S40 卒)	S. D. G 建築設計事務所
白鳥健二 (S41 卒)	アトリエ COSMOS
秋山邦雄 (S42 卒)	歴史環境計画研究所
小辻武 (S43 卒)	小辻建築計画研究所
吉田勝 (S43 卒)	PAO 設計
斉藤博 (S44 卒)	S. アーバンプランニング
矢野和之 (S44 卒)	文化財保存計画協会
浅石優 (S45 卒)	元・東京都市大学教授
新居千秋 (S46 卒)	新居千秋都市建築設計
鍋島潔 (S46 卒)	建物使いやすさ研究所
山岡嘉彌 (S46 卒)	山岡嘉彌デザイン事務所
渡辺透 (S46 卒)	五島育英会
新居仁 (S48 卒)	三菱地所設計
井上富美子 (S48 卒)	井上尚夫総合計画事務所
丹羽譲治 (S48 卒)	デザイン・サークル
古橋昭男 (S49 卒)	古橋建築企画研究所

酒井孝博 (S51 卒)	日本設計
近藤弘文 (S52 卒)	イデア建築研究所
尺田可規 (S52 卒)	SQUARE
高屋利行 (S52 卒)	高屋設計環境デザインルーム
舟岡努 (S52 卒)	舟岡技術士事務所
小林捨象 (S54 卒)	捨象設計ランドスケープ
露木博視 (S55 卒)	オフィス露木、FMC
豊永正登 (S55 卒)	久米設計
伊東俊之 (S56 卒)	野生司環境設計
宗像剛 (S56 卒)	八光建設
宗像知加枝 (S56 卒)	八光建設
小林秀憲 (S57 卒)	松田平田設計
富田秀雄 (S57 卒)	富田秀雄建築アトリエ
本多豊 (S57 卒)	LAN
弓削昌義 (S57 卒)	森ビル
遠藤謙一良 (S58 卒)	遠藤建築アトリエ
堀場弘 (S58 卒)	シーラカンズ K&H / 東京都市大学
益子一彦 (S58 卒)	三上建築事務所
池田勝彦 (S59 卒)	イオンアーキテツツ
井手勤 (S59 卒)	イオンアーキテツツ
大藪元宏 (S59 卒)	大藪元宏建築研究所
佐藤健一 (S59 卒)	AGC テクノロジーソリューションズ
芝本敏彦 (S59 卒)	山下設計
白石誠 (S59 卒)	新居千秋都市建築設計
山極裕史 (S59 卒)	三菱地所設計
山崎誠子 (S59 卒)	GA ヤマザキ
寺崎良一 (S59 卒)	新居千秋都市建築設計
桑原雅明 (S60 卒)	ワークキューブ
原田聡 (S60 卒)	山下設計

丸目明寛 (S60 卒)	久米設計
上田克行 (S61 卒)	久米設計
山本裕之 (S61 卒)	観光企画設計社
吉元学 (S61 卒)	ワークキューブ
手塚真晴 (S62 卒)	手塚建築研究所／東京都市大学教授
油谷康史 (S63 卒)	久米設計
伊藤彰 (S63 卒)	久米設計
尾形光男 (S63 卒)	日本設計
金井正雄 (S63 卒)	観光企画設計社
金子清 (S63 卒)	東急建設
小見山信巳 (S63 卒)	久米設計
佐々木健 (S63 卒)	ケンアンドスタジオバンガード
平賀竜之助 (S63 卒)	平賀竜之助建築研究所
鈴木章浩 (H01 卒)	久米設計
辻秀治 (H01 卒)	久米設計
伊藤学 (H02 卒)	久米設計
柏木穂波 (H02 卒)	カシワギ・スイ・アソシエイツ
片平敬 (H02 卒)	八光建設
中山宏史 (H02 卒)	久米設計
福島加津也 (H02 卒)	福島加津也＋富永祥子建築設計事務所
井上宏 (H03 卒)	久米設計
桐賢史 (H03 卒)	久米設計
斎藤康晴 (H03 卒)	久米設計
石田有作 (H04 卒)	アーキヴィジョン広谷スタジオ
手塚由比 (H04 卒)	手塚建築研究所
和栗晋 (H04 卒)	久米設計
中野貴裕 (H05 卒)	久米設計
福田真司 (H05 卒)	久米設計
小栗幹雄 (H06 卒)	ラウンドテーブル

桑原茂 (H06 卒)	桑原茂建築設計事務所
小柳津伸生 (H07 卒)	日建ハウジングシステム
千野保幸 (H07 卒)	日本設計
鶴岡光晴 (H07 卒)	日建ハウジングシステム
赤松直樹 (H08 卒)	日総建
荒井智康 (H08 卒)	久米設計
大角幸生 (H08 卒)	鹿島建設
横田順 (H08 卒)	久米設計
高橋隆太 (H09 卒)	観光企画設計社
徳野博子 (H09 卒)	大成建設
伊東美也 (H10 卒)	伊東豊雄建築設計事務所
栗田祥弘 (H10 卒)	栗田祥弘建築都市研究所
三好敏晴 (H10 卒)	造研設計
眞田大輔 (H11 卒)	すわ製作所
杉本拓海 (H11 卒)	UTAC architects
藤部竜太 (H11 卒)	浦建築研究所
富川浩史 (H11 卒)	富川浩史建築設計事務所
新居米陸 (H12 卒)	新居千秋都市建築設計
石川大介 (H12 卒)	日建ハウジングシステム
岩崎匠 (H12 卒)	竹中工務店
松谷悟詩 (H12 卒)	久米設計
基真由美 (H12 卒)	M. A. D
植谷英子 (H14 卒)	山岡嘉彌デザイン事務所
鈴木宏亮 (H14 卒)	一級建築士事務所すずき
永山剛 (H14 卒)	坂倉建築研究所
松井亮 (H14 卒)	松井亮建築都市設計事務所
秋田信行 (H15 卒)	久米設計
三岡裕和 (H15 卒)	日総建
増田玄 (H17 卒)	日建ハウジングシステム

小林一行	(H18 卒)	TERRAIN architects ltd
中田裕一	(H18 卒)	中田製作所
中田理恵	(H18 卒)	中田製作所
能作淳平	(H18 卒)	能作淳平建築設計事務所
浅井百合	(H19 卒)	浅井アーキテクト
望月孝浩	(H19 卒)	イオンアーキテクト
渡辺啓人	(H20 卒)	久米設計
中村友亮	(H21 卒)	久米設計
成島奨	(H21 卒)	PAO 設計
平田駿	(H22 卒)	久米設計
柿添宏	(H23 卒)	久米設計
田中祐太	(H23 卒)	三上建築事務所
永井沙知	(H23 卒)	三上建築事務所
松本悟志	(H23 卒)	三上建築事務所
浅井英明	(H24 卒)	久米設計
藺広太郎	(H24 卒)	三上建築事務所
平崎昂	(H24 卒)	久米設計
大澤洋介	(H25 卒)	久米設計
小方信行	(H25 卒)	久米設計
川又祐介	(H25 卒)	三上建築事務所
佐藤拓朗	(H25 卒)	三上建築事務所
澁谷寧浩	(H25 卒)	久米設計
鈴木暁允	(H25 卒)	久米設計
永井沙知	(H25 卒)	三上建築事務所
前博之	(H25 卒)	久米設計
松本悟志	(H25 卒)	三上建築事務所
齋藤勝弥	(H26 卒)	三上建築事務所
杉本歩	(H26 卒)	三上建築事務所

如学会青年委員会
六華会
武蔵工業会館

出展者総数	142 名
内・卒業生	141 名（特別出展 1 名）
昭和年度	68 名（48%）
平成年度	73 名（52%）

ご協力・ご協賛いただきました各社、各位には
厚く御礼申し上げます。

(敬称略・順不同)

協力
台東区役所
上野の森美術館
建築画報
建報社

協賛企業

総合資格
久米設計
高松建設
旭硝子
新星商事
松田平田設計
日本設計
サンテック
荒川技研工業
鉄建建設
三晃金属工業
ウッディーワールド

2015.10.31_[土]—11.01_[日]

東京都市大学建築学科グランドギャラリー

東京都市大学「建築100人展2015・大学展」+「10周年記念・上野の森美術館展」盛大に開催

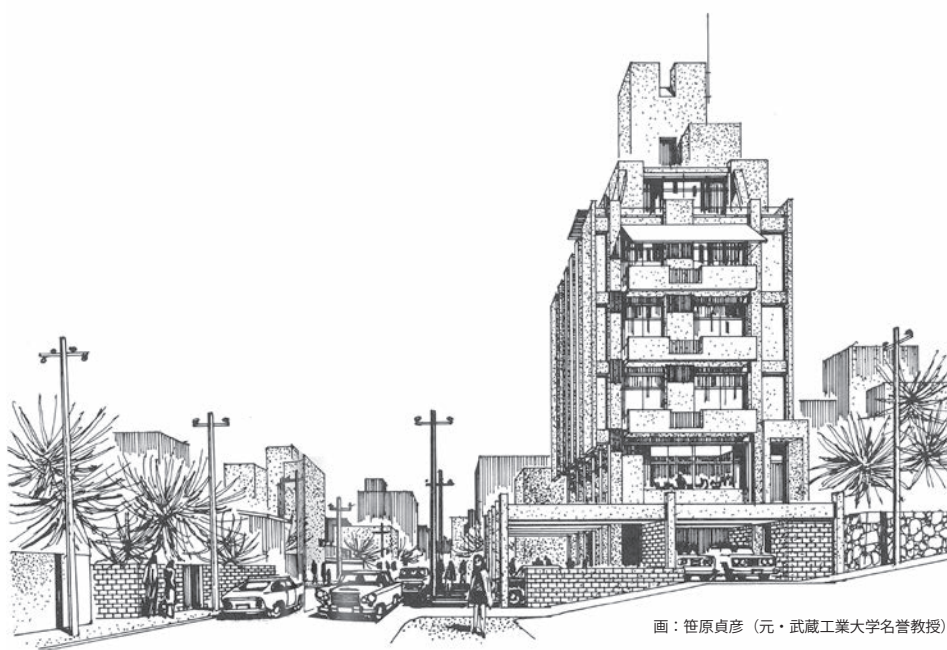
2015.12.16_[水]—24_[木]

上野の森美術館



蘇える武蔵工業会館

レポート●三好敏晴 (H10卒)



画：笹原貞彦（元・武蔵工業大学名誉教授）



サロン



「柏」第1会議室



「桐」（第2会議室）よりサロン・キッチン側を見る

昨年8月、武蔵工業会館の内装改修工事が完了しました。

武蔵工業会館は、都市大世田谷キャンパスから徒歩25分、自由が丘駅から徒歩6分と、利便性の良い場所に位置していますが、このニュースを読んでいる方の中で、実際に訪れたことのある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか？

昭和46年に、武蔵工業大学建築学科の笹原教授の設計により完成して以来45年間、各学科の同窓会、校友会（旧工業会）の会議の場として、また同窓生が気軽に集える場所、サロンとして多くの卒業生に利用されてきました。

しかし、竣工時の想定とは利用形態が異なっており、あわせて2009年、武蔵工業大学が東横短期大学と合併し、東京都市大学となったことで、さらに活発に行われるようになった同窓会の活動に対応するため、下記の3つの課題のクリアが必要となりました。

- ・複数の会議の開催に対応できること
- ・女性のプライバシーを確保した清潔感あるトイレの完備
- ・各種イベント時に、軽食を提供するためのパントリーの完備

この度の内装改修工により、階段室左手にサロン、事務室に加え、会議室「桐」と女性専用トイレが完備されました。右手の大会議室「柏」は部屋の片隅にあったパントリーを撤去し、収容人数が大きくアップしました。また、各種イベントに対応できるよう、新たなパントリーが完備されました。

柏＝武蔵工業大学、桐＝東横女子短期大学のシンボルから名づけられました。サロンも従来のソファ形式から、テーブル形式となったことで、最大3つの会議まで同時に行えるようになり、全ての会議室が同時に使用されることが、ひと月に2～3回ほどあります。

さらに、曇りガラスから透明ガラスに、重いカーテンから軽快なブラインドに変わった窓周りは、室内の印象だけでなく、外観の印象をもとても明るくなりました。

内装改修工により、飛躍的に利用しやすく進化した工業会館。これから更に多くの同窓生に利用してもらい、さらには昼間、会議などに使われない時間帯の外部利用が広まれば、今までにない活発な建物になることでしょう。そして、いま築45年の建物は、耐震改修工事に向けて動いています。

武蔵工業会館利用のご案内

住所：世田谷区奥沢5-37-9（2階）

営業日：月曜～金曜（土曜は要相談）

営業時間：13時～21時

会議室：・柏 60.38㎡（会議・展示）54名

・桐 29.57㎡（会議・お食事）18名

・サロン 19.71㎡（会議・お食事）10名

TEL&FAX 03-3721-1052

（13:00～17:00/土・日・祝日除く）

E-mail: mitkaikan@kiu.biglobe.ne.jp

HomePage: http://kashiwa-club.jp/

スキルアップ講座 開催

第1回「イラストレーター講座 初級編」

第2回「熱環境デザインの基礎講座」

如学会・青年委員会

●第1回「イラストレーター講座 初級編」 2015年8月6日（土）
同世代の新たな交流、お互いの知識を学びあえる機会をつくろうと企画されたスキルアップ講座。第1回はプレゼンテーションツールとして多く利用されているAdobe Illustratorの使い方講座を開催しました。

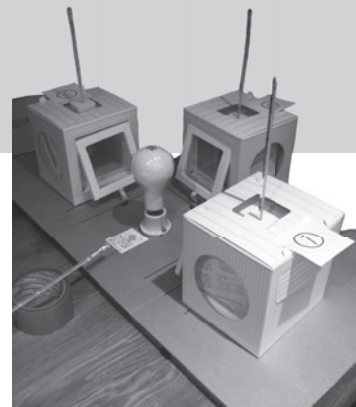
「簡単な操作で、洗練されたプレゼンづくり」



写真やテキストの資料はワードやエクセルでも作成できますが、イラストレーターを使えば、より分かりやすくデザインされたプレゼン資料の作成が可能です。本講座では、無料体験版ソフトをダウンロードするところから順を追って進めていくので、全く使ったことのない人でもノートパソコンを持参するだけで参加可能です。写真やテキストなどのコンテンツをレイアウトしていく操作を、プロジェクターを通して参加者に分かりやすく説明してくれました。コンテンツの整理、作成データの保存方法などすぐに必要な方法もきちんと習得でき、「新たなソフトの活用法を習得する時間がない」という中堅世代でも、短時間ですぐに活用できるようになると思います。「今さら聞くに聞けない疑問」も気兼ねなく聞くことができ、会社帰りの数時間をうまく利用して、自身のスキルアップに役立ちました。直ぐ実践できるデザインツール情報は、多忙な同世代の貴重な情報源となります。

●第2回「熱環境デザインの基礎講座」 2016年1月30日（土）
スキルアップ講座の2回目は、前回の如学会NEWSで紹介したインタビュー「社会をデザインする先駆者が語る一環境・設備を極める」で紹介した廣谷純子さん（H7卒）をメインファシリテーターに、小室大輔さん（H3卒）、星野佳子さん（H18卒）をコメンテーターに招き「家の性能が違えば室内環境はどう変わるの？冬編」と題してワークショップを開いて頂きました。

電球を太陽に見立て、仕様の異なる3つの箱の内部温度の変化を調べる実験を行い、作成したグラフをもとに、建物性能の違いとその効果の関係をみんなで考察し合うワークショップです。ファシリテーターの廣谷さんは「環境をデザインすることは、自然を活かした心地良い住まいと暮らしを提案することと考えています。業界では当たり前に使われているような言葉だけでは、使用者への使い方に対する説明になっていない。」という思いから今回のようなワークショップの企画や教材開発を始めました。一見地味にも見えるこのワークショップから、日頃行っている設計業務で疑問に感じるものの答えがいくつも隠されていることに徐々に気づかされていきます。内断熱と外断熱の特徴や、蓄熱と開口部の関係、断熱と気密の関係などなど。参加者の一人である杉本拓海さん（H11卒）は、「感覚で理解していたものが実験を通して数量的に見ることができ、その結果を専門家と話し合いながら環境への理解につながれたことは、今回のワークショップに参加したことの一歩の収穫でした。」と感想を述べていました。



今回の参加者は学生もいましたが、実務経験のある方が多かったことから、ワークショップ後の議論や懇親会では環境・設備に関する積極的な質問が3名の講師陣に投げかけられました。特に「断熱と気密」についてその関係性が勉強してもよく分からないという意見が参加者からでた時、小室さんが「断熱と気密」は「セーターとウィンドブレーカー」の関係に似ている、という答えに一同納得し胸に落ちたようでした。何事も一つの機能だけでは成立せず、合わせて使うことで相乗効果を増すことが多いとのことでした。建築内の異分野交流のきっかけにもなるワークショップでした。

このワークショップは「冬編」と題して冬の気候の中で建築環境が性能の違いによってどのように変わるかを体験しましたが、次回4月16日にはその「夏編」を開催することが決定しました。年齢制限等はございませんので、気兼ねなくご参加ください。

日時：2016年4月16日（土）15：00～17：00

場所：PORTAL POINT（http://portalpoint.jp/）

東京都港区北青山3-5-6 青朋ビル本館3F

ファシリテーター 廣谷純子（みつっデザイン研究所）

コメンテーター 小室大輔（エネクスレイン）、星野佳子（テーテンス事務所）

参加申込み：みつっデザイン研究所 廣谷純子

mittudesign@gmail.com



スキルアップ講座は青年委員会が主体となり、実務で取得した実務に必要な知識・経験・情報を同世代や、社会でこれから活躍していく若手に向けて、発信していくプログラムです。講座に参加したいと興味を持たれた方、また講師として貴重な知識・経験・情報を教えて頂ける方、ご連絡をお待ちしております。

講座の後には、懇親会を行い、新たな交流を築いて行ければと考えています。今後もいろいろなテーマに沿った講座の開催を企画したいと思います。

連絡先：jogakkai.seinen@gmail.com

■2016年度のスケジュール

第3回 4月16日（土）「熱環境体験講座」

第4回 7月23日（土）「構造計画講座」

第5回 未定 「イラストレーター中級講座」

「自然のポテンシャルを生かす」ということ

表彰

蔵田賞・如学会賞及び各賞

如学会では、卒業研究優秀者の顕彰として、卒業設計最優秀賞に「蔵田賞」を、卒業論文最優秀賞に「如学会賞」を授与しています。
表彰者にはそれぞれ、2016年3月19日の学位授与式にて如学会会長・山岡嘉彌から記念品が贈呈されました。

■学術優秀賞

関根明日香（濱本研究室）

■理事長賞

佐竹高祐（大村研究室）

■山田奨学基金賞

桑原 健（大村研究室）

■東京都市大学校友会賞

綿引裕菜（勝又研究室）

■空気調和・衛生工学会振興賞・学生賞

立川義隆（岩下研究室）

■後援会長賞

久保玲奈（天野研究室）
古庄哲也（近藤研究室）

■蔵田奨学基金賞

宮本凱土（福島研究室）

■如学会賞

関根明日香（濱本研究室）

■卒業設計優秀賞

2016年2月8日に卒業設計講評会が行われました。学外審査員に小嶋一浩氏（横浜国立大学大学院教授）、西田司氏（オンデザインパートナース）、浅石優氏（東京都市大学都市生活学部・元教授）、新居千秋氏（東京都市大学客員教授）をお迎えし、審査の結果、以下の通りに個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から以下の3名が卒業設計優秀賞として表彰されました。

【個人賞】 ※当日会場にて表彰

●小嶋一浩賞 岡部絢子（手塚研究室）
●西田 司賞 石川恵理（堀場研究室）
●浅石 優賞 佐伯太市（手塚研究室）
●新居千秋賞 宮本凱土（福島研究室）

【卒業設計優秀賞】

石川恵理（堀場研究室）
岡部絢子（手塚研究室）
佐伯太市（手塚研究室）

■卒業論文優秀賞

2016年2月9日に卒業論文発表会が行われました。下記の10名が建築学科教室より卒業論文優秀賞として表彰されました。

石井大裕（岩下研究室） 大槻有史（近藤研究室）
久保玲奈（天野研究室） 桑原 健（大村研究室）
高麗夏実（大橋研究室） 瀬戸有馬（佐藤研究室）
菱沼 乾（西村研究室） 三田真頌（小林研究室）
望月和馬（小見研究室） 山本早紀（勝又研究室）

■修士論文優秀賞

2016年2月13日に修士論文発表会が行われました。下記の4名が建築学科教室より修士論文優秀賞として表彰されました。

植田千尋（堀場研究室） 込山皓基（近藤研究室）
中井健太郎（小見研究室） 藤村直輝（西村研究室）

■修士設計優秀賞

2016年2月15日に修士設計発表会が行われました。学外審査員に浅石優氏（東京都市大学都市生活学部・元教授）、新居千秋氏（東京都市大学客員教授）、Simon Whibley氏（RMIT University（豪））をお迎えし、審査の結果、以下の通りに審査員から個人賞が表彰されました。
また、建築学科教室から以下の4名が修士設計優秀賞として表彰されました。

【個人賞】 ※当日会場にて表彰

●浅石 優賞 澤口花奈（手塚研究室）
●新居千秋賞 里吉 健（堀場研究室）
●Simon Whibley 賞 似内康文（手塚研究室）

【修士設計優秀賞】

高野夏実（手塚研究室） 澤口花奈（手塚研究室）
里吉 健（堀場研究室） 似内康文（手塚研究室）



卒業設計

大橋研究室（材工系）

高麗夏実 木漏れ日の音色 ①

手塚研究室（計画系）

三木雄太 貧困から抜け出せるコミュニティの構築 ②
岡部絢子 37.5℃の涙 (A) ③
加藤賢一 Handmade Free School ④
佐伯太市 よしろうの小屋 (C) ⑤
西尾拓真 めの家 二号店 ⑥
平木かおる 写真のころ ⑦
村上裕貴 記憶の器 ⑧
山田美穂 野菜の塔 ⑨

福島研究室（計画系）

重住岳 FASHION×ARCHITECTURE - ファッションから建築への応用 - ⑩
高橋衛 Akita Mall Project 2016 - 地方都市の再生 - ⑪
宮本凱土 Log- 時代景の通過 - (D) ⑫
森秀太 集合住宅率 70% - 集まって住むことの動的平衡性 - ⑬

堀場研究室（計画系）

荒木久瑠美 憩いの森の集いの場 - 子供からつながるコミュニティ - ⑭
石川恵理 成長するまなびや - 「フリースクール僕んち」改築の提案 - (B) ⑮
島村昌悟 獅子の杜 - 伝統芸能の社会的価値の再考 - ⑯
中島平 囲碁ビルー幽玄のあらわれ - ⑰
永山樹 手しごとの家 - 民藝のある暮らし - ⑱
橋爪友介 追浜高等学校弓道場 ⑲
森村慧 ツムギモノガタリ - 織物の街のハンドメイド工房 - ⑳

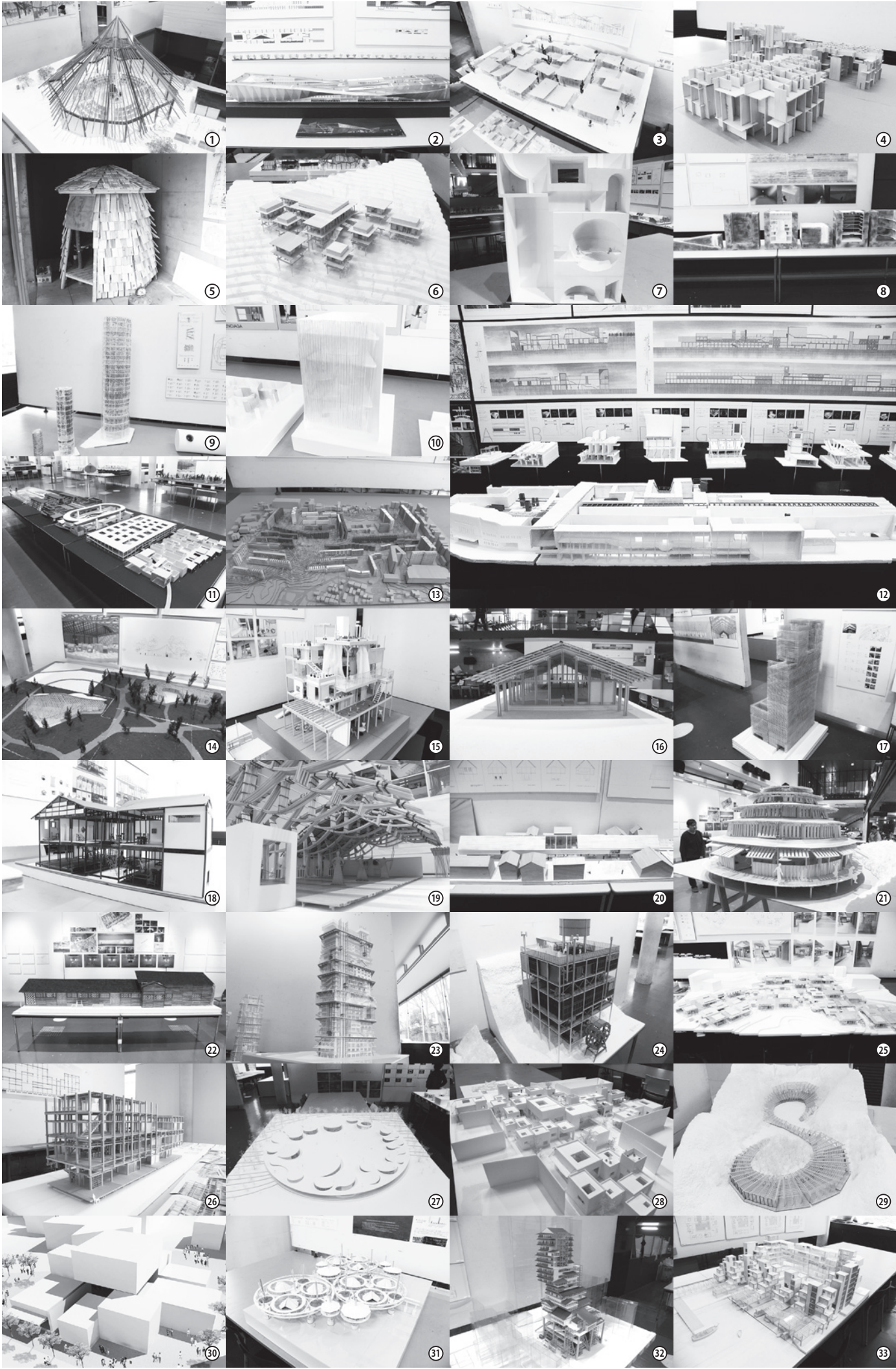
修士設計

手塚研究室（計画系）

高野夏実 人が集いやすい場における研究
ー 女川照源寺における音楽堂の提案 - ㉑
飯島広大 富山県氷見市に現存する土蔵倉庫の公共建築への転用
ー 地域における歴史の復興と再編 - ㉒
澤口花奈 「add on」による超高層建築の建築手法の考査 (E) ㉓
立石直敬 エネルギー社会におけるゼロエネルギー建築のあり方
- からくりを用いた自立建築の研究 - ㉔
似内康文 理想的な児童養護施設の在り方の研究 (G) ㉕
橋本弘一 不登校児童生徒のためのフリースクールに関する研究 ㉖
畑雄人 殺処分のない動物愛護センターの在り方の研究
- 郡管理医療および動物行動学に基づく代理飼養建築 - ㉗
松田拓也 発達支援施設へ建築が与える社会的貢献に関する考察と提案 ㉘
柳健太郎 弔う建築 - 故人との別れの空間としての火葬場の研究 - ㉙

堀場研究室（計画系）

青山智宙 鉄道軌道の地下化により生まれた空間を利用した映画館の提案 ㉚
上田萌 蜘蛛の巣の形状を利用したテンセグリティ構造及び、
その実用としてツバル海上居住空間の提案 ㉛
里吉健 歌舞伎における研究と舞台空間の提案 (F) ㉜
日比野和人 東京湾の埋め立て問題をふまえた歴史的建築物の研究
～ 品川浦の船宿 ～ ㉝



Log

- 時代景の通過 -

Logとは建築の増改築の痕跡である。

度重なる増改築によって維持され続けてる上野駅。

ここにある Log を空間化する。

過去の Log は未来の駅を示す地図となる。

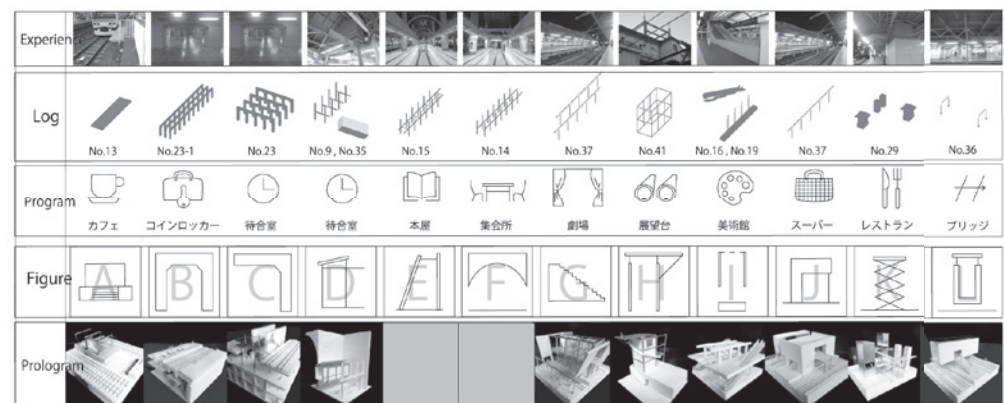
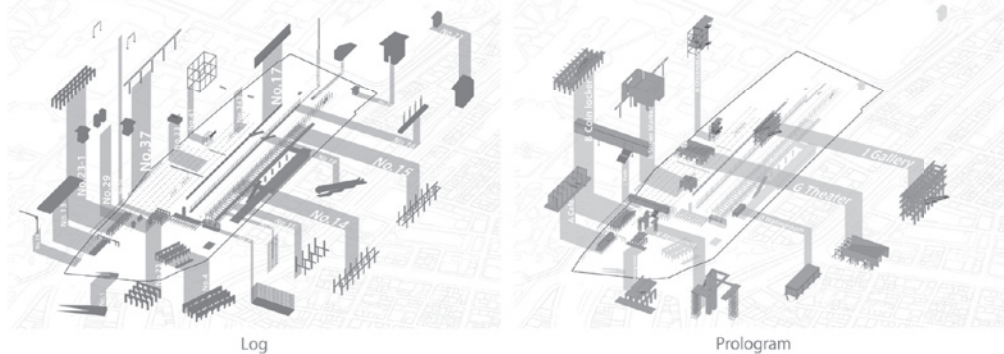
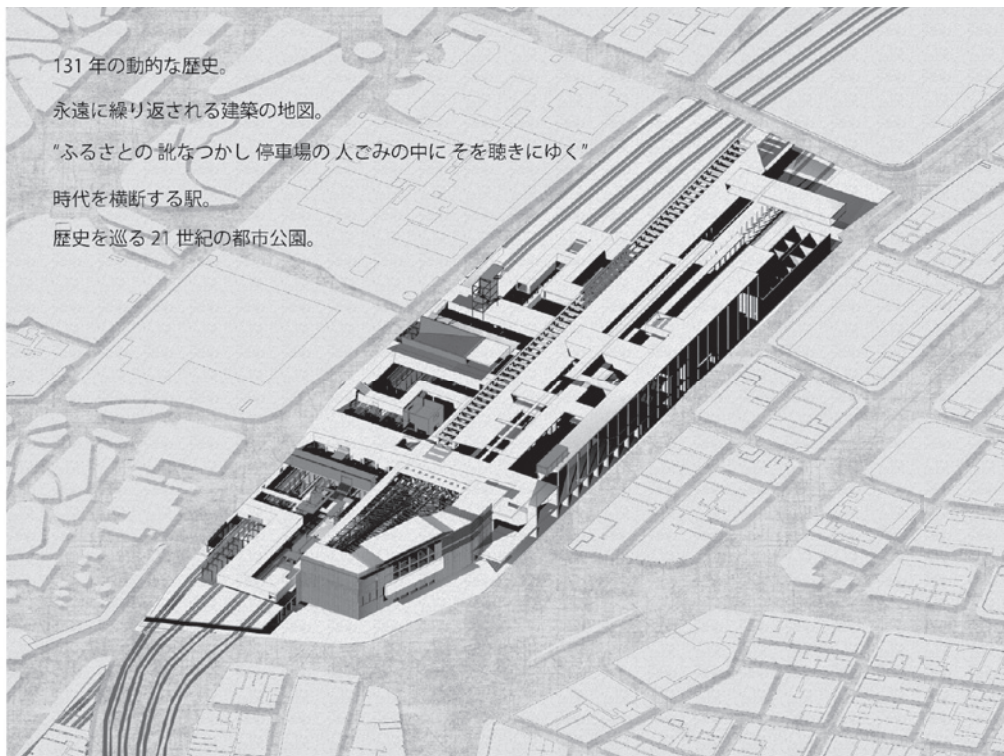
建築の歴史と駅の歴史を巡る建築群。

それを21世紀の都市公園と呼ぶ。

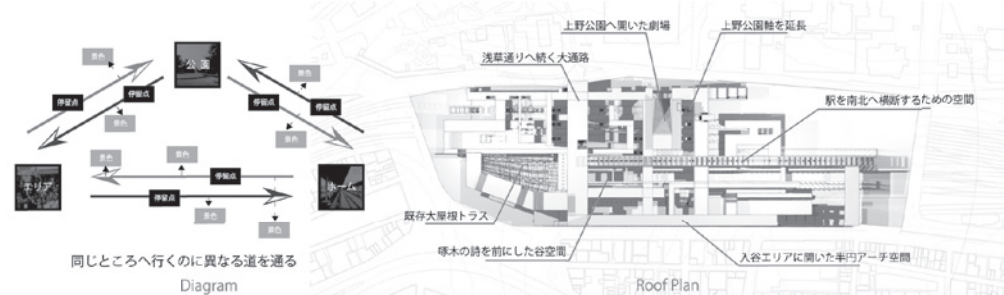
日常の通過点となる駅はLogを通して

異なる時代を横断する駅へと転換する。

駅
||
時代を巡る記憶の公園
↑
地層のように蓄積される歴史



Prologram = Log + Program + Figure



軍艦島の長期モニタリングに基づく70号棟の動的挙動に関する発見

1. 研究概要

建築物の長期モニタリングは構造健全性を評価する技術である。この技術を利用して、将来起こりうる災害に対して建物が安全性を確保できるかどうかを判断することが期待される。建築物の将来の状態を予測するには、長期間のモニタリングによって計測データを蓄積し、様々な条件下での建築物の応答を把握する必要がある。

軍艦島 70 号棟は、建物東側半分の地盤が大きく洗掘されている。厳しい海洋環境に晒された結果、多くの部材が破壊・損傷し、崩壊過程にある。

本研究では、長崎県軍艦島（端島）70 号棟において長期間の振動モニタリングを行うことにより、崩壊状態に近い建築物の複雑な動的挙動に関する知見が得られたので報告する。

2. モニタリング概要

長崎県軍艦島（端島）70 号棟を対象として、2015 年 4 月～10 月にかけて長期モニタリングを行った。モニタリングには高精度 MEMS 加速度センサを用いた。洗掘部分にある東側階段と地盤上にある西側階段の各 1F と 7F にセンサを設置した。また、隣接する 65 号棟の 1F にセンサを設置し、地盤の振動と同一（図 1，図 2）。

振動計測は太陽光パネルと蓄電池を用いたモニタリングシステムによって自動的に繰り返し、取得データを島外に無線で転送した。計測間隔は通常時には2時間間隔としたが、台風接近時には遠隔操作で30分間隔に縮めた。1回の計測時間は連続で10分間とした。

3. モニタリングの結果

一般的な建築物であれば、微動計測を行うことによって卓越振動数などの建物固有の振動特性を推定できる。しかし崩壊過程にある 70 号棟の微動計測によって得られた振動特性は、計測日時によって大きく異なる数値や特徴を示した。

70 号棟の動的挙動に荷重条件に与える影響を検討するために、①地盤振動が卓越する**高波時**と②風圧力が卓越する**強風時**（図 3）のデータを複数用いて解析した。

①高波時の振動は、地盤上にある西側では 1F よりも 7F の振動が増幅されているが、洗堀部分にある東側では 7F よりも 1F の振動が増幅されており上下階の因果関係が失われていた。また、対角の関係にある西側 7F と東側 1F に相関が見られた（図 4）。さらに 65 号棟 1F と西側 1F に高い相関が見られ、高波時には波が岸壁に当たることで地盤振動が増幅され、建物固有の振動よりも地盤振動が卓越した揺れになることを確認した。

②強風時には、風圧力の影響が地盤振動の影響よりも大きくなることで、建物固有の振動が励起されやすくすることを確認した（図 5）。

4. 本研究の成果

長期間の振動モニタリングにより、崩壊過程にある軍艦島 70 号棟の特徴的な動的挙動を概括した。また、1 回の振動計測では把握しきれない建物の動的挙動を観測し、長期間のモニタリングの有用性を確認した。

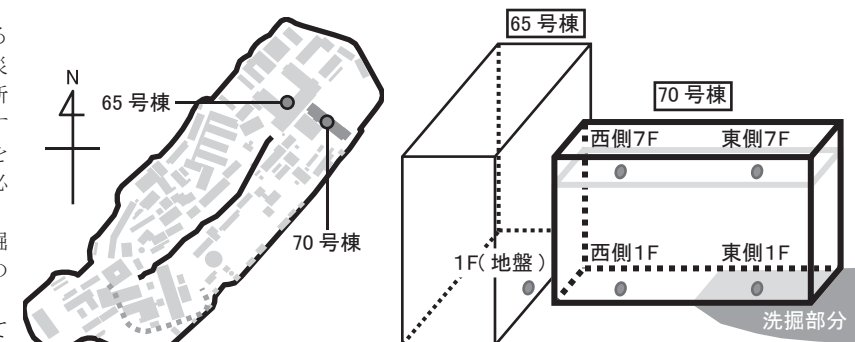
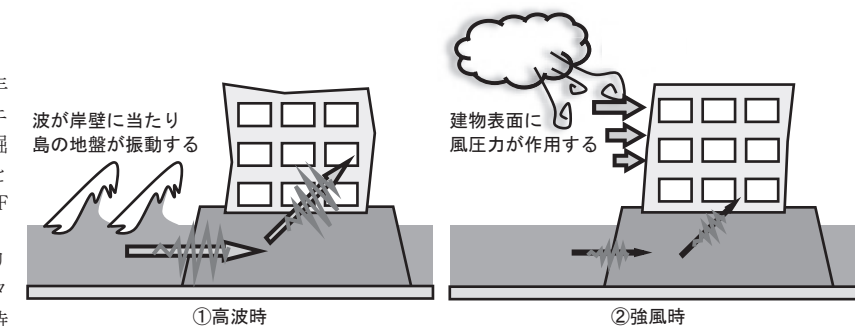


図 1. モニタリング対象建物の配置

図 2. 加速度センサ配置図



①高波時 ②強風時

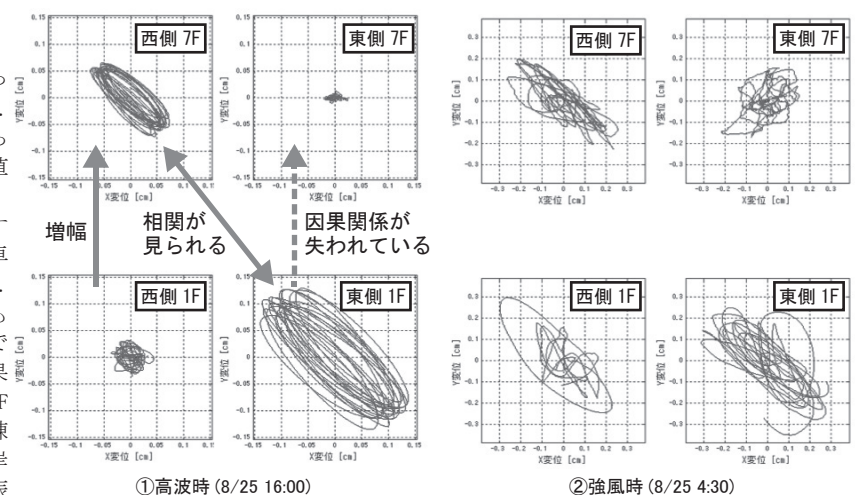


図 4. 代表データの変位リサーチ

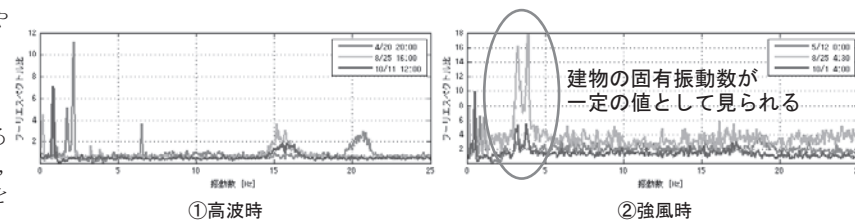


図 5. 代表データの伝達関数（西側7F/1F）

如学会 会費の納入方法は3つあります

①郵便局で納金



従来どおり、郵便局から「払込取扱票」でお振込みください。

【ATM 操作手順】

操作手順	操作内容
①ATM画面で「お振込」を選択	
②振込先・銀行名の選択	『ゆうちょ銀行』を選択
③振込先・店名の入力	『セ』を選択
④振込先・店名の入力	店名『〇一九』(019)を選択
⑤振込先の預金種目を選択	『当座預金』を選択
⑥口座番号の入力	『0174206』を入力
⑦振込名義人名の入力	振込名義人名は必ず、 ・『カイヒ』または『シエンヒ』 ・『-』(ハイフン) ・卒年 ・名前 の順で、一行で入力すること。
⑧電話番号の入力	振込人の電話番号を入力
⑨入力情報の確認	ATMの画面に入力情報が表示される

お願い：お振込み後は、お手数ですが確認の為、
tsuyuki@pom.jp までメールをお願いします。

注意：お振込みには別途振込手数料がかかります

③パソコン・スマホで納金



パソコン・スマホからインターネットバンキングを利用する

—みずほ銀行の例—

①インターネットバンキングにログイン後、「この口座からお振込」を選択する。

②「■お客様の名義を変更して・・・」の『変更する』で名義名^{注)}を入力する。『新しいお振込先』を選択し、「次へ」をクリックする。

注) 名義名には必ず、
「カイヒ」または「シエンヒ」+「-」+卒年+名前(姓名)
の順で、一行で入力すること。

例：『シエンヒ(1マンエン)ーS55ヤマダタロウ』

③依頼人名を確認し、「ゆうちょ銀行」を選択する。

④振込先金融機関「ゆうちょ銀行」を確認し、店番号に『019』を入力し、「検索」をクリックする。

⑤お振込先の店名で、「〇一九」を選択し、「次へ」をクリックする。

⑥お振込先の店名を確認し、取引種別：『当座』、口座番号：『0174206』、振込金額に所定の金額を入力し、「次へ」をクリックする。

⑦お振込先口座情報を確認し、振込内容の確認✓後、「ワンタイムパスワード」を入力し、「振込実行」をクリックする。

注意：画面に表示されている口座番号は頭の「0」がありません。ワンタイムパスワードカードに振込先口座番号を入力する際には、必ず『0174206』と、頭に0を付けて入力してください。

お願い：お振込み後は、お手数ですが確認の為、
tsuyuki@pom.jp までメールをお願いします。

注意：お振込みには別途振込手数料がかかります。

如学会の今年の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

東京都市大学「建築 100 人展 2016 大学展・巡回展」

2016.10.29 [土] - 10.30 [日]

大学展 10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科棟1階グランドギャラリー

巡回展

日程・会場：未定（調整中）

※近日、メールマガジン・HP、「如学会 NEWS 2016 秋号」にてお知らせします。 本文 P17 参照

定期総会・講演会・懇親会

2016.6.4 [土] 15:30-20:00

15:30 ●定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急

16:30 休憩

16:45 ●講演会 ●東京都議会議長・川井しげお氏

17:45 休憩 (下記参照)

18:00 ●懇親会

20:00 ※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HP もご覧ください。

川井しげお先生 講演会

2016.6.4 [土] 16:45-17:45 (総会後開催)

「東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて」 (仮題)

講演：川井しげお氏
(東京都議会議長、本学土木 S46 年卒)

「東京都議会 オリンピック・パラリンピックを成功させる議員連盟」会長をつとめておられる川井氏にその後の施設建設の進捗状況などを講演いただきます。奮ってご参加下さい。



赤レンガ卒業設計展 2016

2016.3.25 [金] - 29 [火] 10:00-19:00

●会場：横浜レンガ倉庫 1 号館 1 階・2 階

●講評審査会

・日時：2016.3.27 [日] 13:15-

・会場：横浜赤レンガ倉庫 1 号館ホール

・審査委員：猪熊純、加茂紀和子、北山恒、田中元子、鍋島千恵、前田圭介、松田達

●参加大学

東京都市大、東京工業大、東京理科大学、東京理科大学工学部、首都大学東京、東京電機大、工学院大、共立女子大、横浜国立大、神奈川大、前橋工科大、東海大、日本女子大、日本大生産工学部、日本大理工学部建築学科、日本大理工学部海洋建築工学科、法政大、明治大、昭和女子大

●問い合わせ

akarenga.diploma2016@gmail.com (代表：中島)

東京都市大学



卒業生 100 人の活動を集めました。

建築 100 人展
2016

| 大学展 2016.10.29 ▶ 10.30 | 巡回展

濱本卓司教授 最終講義

2016.7.9 [土] 14:00-19:30

講演会：14:00-16:30 東京都市大学内教室

懇親会：17:00-19:30 1 号館 4 階ラウンジ

教室は、如学会メールマガジンにてお知らせいたします。また当日、校内に案内を表示いたします。懇親会は参加費（¥3,000 / 1 人）を徴収させていただきます。懇親会の都合上、ご参加いただける方は事前に三好までご連絡下さい。また、ご不明な点や、お問い合わせも下記アドレス宛にお願い致します。濱本研究室卒業生の皆様は、是非ご参加ください。濱本先生最終講義懇親会幹事三好敏晴 (H10 卒) miyoshi@zoken.co.jp



会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようにお願いします。

会費：3,000 円 / 1 年分・10,000 円 / 4 年分
支援費：5,000 円 / 一口

納入頂ける方は必ず内訳をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

メールアドレスのご連絡を

メールマガジンでタイムリーな情報をお伝えします

「如学会 NEWS」では掲載しきれないタイムリーな情報を皆様にお伝えするため、メールアドレスの充実が早急の課題となっています。是非とも皆様のメールアドレスをご連絡下さい。住所、電話番号の変更のある方もご連絡下さい。広報委員会では「ホームページ」の充実と、「メールマガジン」（3 月 9 日現在 193 号を発信）の随時発信をしております。

連絡先：会員委員長・小林捨象
E-MAIL: stezo@kje.biglobe.ne.jp

編集後記

卒業生へ、実社会に出て学ぶことは継続しなければなりません。現場で学び、失敗して学びの連続です。卒業していきなり編集の仕事についた方、ディレクターに就職し 40 才過ぎてから睡眠時間を削って業界の方と対等に話せるまで金融を勉強した方、仕事をしながら社会人大学院で勉強している方、10 年かけて博士論文を書き上げ、博士号を獲得された方々がおられる一方、世界的に有名なファッションデザイナーや、グラフィックデザイナーの中にも建築学科出身の方々がおります。進む道は様々です。建築には広がりがあり、可能性があります。自分を信じて諦めず進んで下さい。社会に出ると先輩、同輩、後輩に助けられます。如学会は 3 者を様々な活動を通じて結びつけます。如学会を継続させなければなりません。卒業したら如学会員です。人材と会費が活動を支えます。ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

丹羽譲治

各事業の申し込み
問い合わせ先
総務委員長
丹羽 譲治
TEL: 03-5790-8082
FAX: 03-5790-0654
E-mail
jogakkai.info@gmail.com

発行人

山岡 嘉彌

情報委員長・編集長

丹羽 譲治

編集顧問

松成 和夫

編集委員

酒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

制作

鈴木 浩

奥山 美緒

制作・印刷

株式会社 はやと企画

発行

東京都市大学建築学科如学会
東京都世田谷区玉堤 1-28-1
〒158-8557

発行日

平成 28 年 (2016 年) 3 月 19 日